



女性研究者 研究の「種」のほん





ごあいさつ

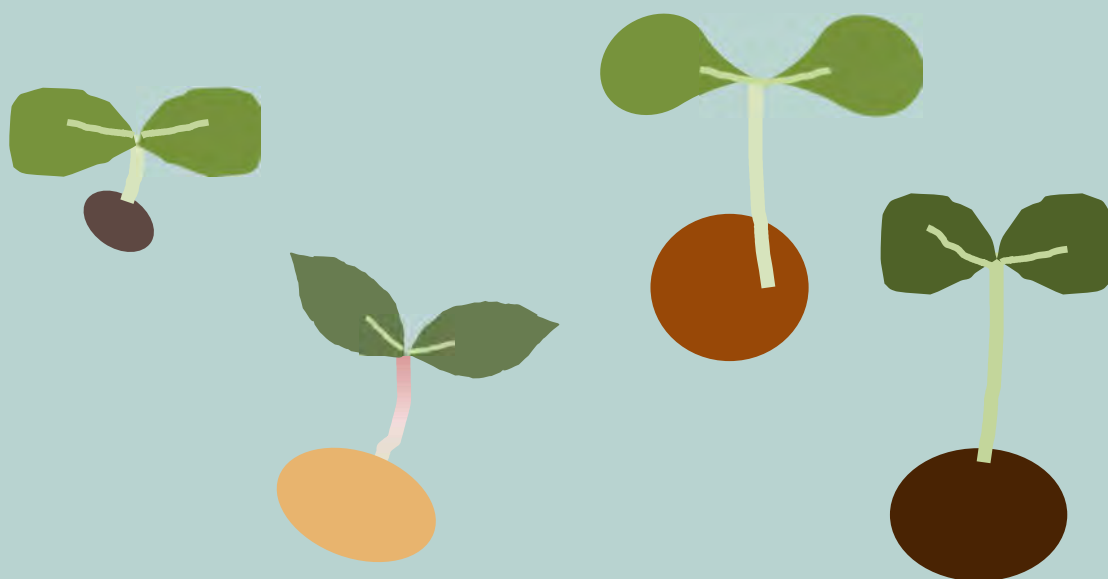
岐阜大学が代表機関となり、岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社と共に申請して採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」も、2年目を終了しようとしています。当事業では諸々の取り組みを「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」と題し、女性研究者のパワーで岐阜を創生すべく様々な活動を行っています。

その中でも特に力を入れているのが「連携型共同研究助成プロジェクト」です。これは、連携機関のいずれかに所属する女性研究者が代表となり、他の機関所属の女性研究者と共同研究を行う場合の支援をする制度です。所属機関の少なくとも1名の女性研究者が参加すれば、男性研究者も共同研究者として参加することが可能です。

交付金を受けての、この支援制度は2017（平成29）年度で終了しますが、その後も何らかの形で、岐阜県内での複数の大学および企業の境界を越えて、女性研究者のパワーで協働し、岐阜創生を推進してまいります。

このたび、私たちの呼びかけに応じてくださった51名の女性研究者の研究の「種」を1冊の冊子にまとめました。この冊子を手にしていただいた方が、ここで何かの「種」を見つけ、それを植え、育て、いつかそれがたくさんの実を結ぶことを心より願っています。

2017年3月





目 次

ごあいさつ 1

目次 (敬称略) 2

岐阜大学 3

大藪 千穂	5	山根 京子	14
柴田 奈緒美	6	柴田 早苗	15
住浜 水季	7	中川 千春	16
林 正子	8	魏 永芬	17
高橋 由起子	9	小山 真紀	18
鈴木 紀子	10	廣岡 佳弥子	19
稲垣 瑞穂	11	土谷 桃子	20
勝野 那嘉子	12	山本 眞由美	21
タンマウォン マナスイカン	13	相原 征代	22

岐阜薬科大学 23

永澤 秀子	25	伊野 陽子	27
寺町 ひとみ	26	堺 千紘	28

岐阜女子大学 29

三輪 聖子	31	三宅 茜巳	45
藤木 節子	32	谷 里佐	46
安井 智恵	33	石原 眞理	47
児玉 愛子	34	加藤 真由美	48
齋藤 益美	35	佐々木 恵理	49
大崎 友記子	36	松本 香奈	50
水野 幸子	37	松家 鮎美	51
太田 和子	38	森 洋子	52
藤田 昌子	39	齋藤 陽子	53
伊佐 保香	40	岡部 明日香	54
笠井 恵里	41	鈴木 泰恵	55
木村 具子	42	山中 マーガレット	56
大場 君枝	43	辻 公子	57
清水 祐美	44		

アピ株式会社 59

新井 靖子	61	森本 智美	62
-------	----	-------	----

2015（平成27）年度採択の連携型共同研究課題一覧 63

2016（平成28）年度採択の連携型共同研究課題一覧 64





国立大学法人

岐阜大学



研究主題：

消費者の情報活動と ライフスタイルに関する研究

教授 **大藪 千穂** Chiho Oyabu



研究のキーワード

ライフスタイル、情報活動、消費者、家計、環境、消費者問題

一言アピール



お金と買物が大好きで今の仕事をしています。
消費者の情報活動（収集・蓄積・活用・発信）とライフスタイルの関係に関心を持っています。
家計行動、環境行動、消費者行動に情報力がどのように関係し、それによって人間発達がいかに進むかを授業実践を通じて研究しています。



所属：岐阜大学 教育学部 家政教育講座

役職：教授

E-mail chiho@gifu-u.ac.jp

専門分野：家庭経済学・家庭経営学・ライフスタイル論

経歴

1994年3月 大阪市立大学大学院 生活科学研究科
後期博士課程 人間福祉学 単位取得修了
1994年4月 岐阜大学 教育学部 家政教育講座 助教授
1994年9月 博士(学術)
1998年 Elizabethtown College Young Center Fellow
2006年～ 放送大学 主任講師、客員准教授、客員教授
2007年 岐阜大学 教育学部 准教授
2010年4月 岐阜大学 教育学部 教授 現在に至る

研究の概要



「人生設計ゲーム」を作成し、小・中・高校・大学・社会人に実践しています。
現在は、WEB版を作成中。高齢者用のライフプランニング用キットと幼児用の金融教育も開発中。
家計簿アプリを用いた家計行動分析も研究予定です。

学校給食の残滓調査をし、給食から環境教育を考える教材を研究しています。ちなみに写真↓は給食から出た小型パンの残り。もったいないですね・・・



200年前と同じライフスタイルを世界の先進国アメリカでと続けるAmishの人々。そのライフスタイルと環境、情報との関係を研究しています。

代表論文・著書等

- ① 大藪千穂, ちほ先生の家計簿診察室, 名古屋リビング新聞社, 全213頁, 2002
- ② 大藪千穂, お金と暮らしの生活術, 昭和堂, 全230頁, 2006
- ③ 大藪千穂, 生活経済学, 財団法人放送大学教育振興会, 全265頁, 2011
- ④ 杉原利治・大藪千穂(分担翻訳), アーミッシュの謎, 論創社, 全209頁, 91-173担当, 1996
- ⑤ 杉原利治・大藪千穂(分担翻訳), アーミッシュの学校, 論創社, 全204頁, 2004
- ⑥ 杉原利治・大藪千穂(分担翻訳), アーミッシュの昨日・今日・明日, 論創社, 2009
- ⑦ Oyabu C., Sugihara T., New Strategies for Sustainable Society. II. The Perspectives of an Alternative Lifestyle in Well-developed Countries Through Amish Way of Life, The Journal of Asian Regional Association for Home Economics, Vol.4, 85-93, 1997
- ⑧ 大藪千穂・杉原利治, 家計消費とCO₂排出量から見る20年間のライフスタイルの変化－1980年～1999年の動向－, 生活経済学研究, 第16巻, 211-218, 2001
- ⑨ 大藪千穂・杉原利治, 学校給食の残滓, 日本家政学会誌520, Vol.59, pp.621-630, 2008
- ⑩ 大藪千穂・杉原利治, 家庭のマテリアルフローからみたごみ減量と消費者教育, 消費者教育, Vol.30, pp.97-106, 2010
- ⑪ 大藪千穂・奥田真之, 「人生設計ゲーム」を用いた金融経済教育, 生活経済学研究, 第41巻, pp.45-53, 2015
- ⑫ 大藪千穂・奥田真之, 地域金融機関との連携による金融経済教育の開発と実践－「人生設計ゲーム」の教育効果と地域貢献－, 生活経済研究, 第43巻, pp.65-75, 2016

共同研究希望分野

家計行動(消費行動)、環境行動、教材開発等

研究主題：

学校給食におけるアレルギー対応食の 多様化に向けた試み



助教 **柴田 奈緒美** Naomi SHIBATA

研究のキーワード

加熱調理，調理シミュレーション，官能試験，品質評価

所属：岐阜大学 教育学部 家政教育講座
役職：助教
E-mail：naomi_i@gifu-u.ac.jp
専門分野：調理科学，食品科学，調理工学

一言アピール

食品は調理により，食感や形など変化が生じるため，材料の配合割合や調理法が変われば，調理終了時の品質も変化します。
そこで，ヒトが好む品質を担保する調理法を効率的に探索できる調理シミュレーション（予測計算手法）の確立を目指しています。



予測計算
（調理法の提示）



＜分析＞
味，食感，
色 etc…

経歴

2014年3月
東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究科 博士後期課程
応用生命科学専攻 修了(海洋科学)

2014年4月
岐阜大学 教育学部 家政教育講座 助教

研究の概要

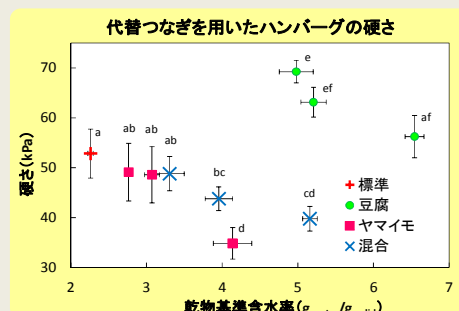
現在，日本の食物アレルギー児は全国の公立学校で約45万人おり，9年前と比較し1.7倍に増加したことが文部科学省の調査で報告された。学校給食の役割のひとつとして，クラスメイトと一緒に給食を食べる体験による豊かな人間関係の形成が挙げられるが，平成25年度では児童・生徒の2.1%に対して除去食などの対応が行われていた。クラスメイトと異なる給食を食することは，精神的な苦痛を伴う可能性がある。

そこで本研究は，学校給食の献立を分析し，開発すべき代替食の優先順位を明らかにした（論文①）。なかでも，提供頻度が高いハンバーグは，子どもに人気の給食メニュー第3位であるにも関わらず，三大アレルゲン（卵・乳・小麦）の全てが含まれている。そこで，アレルゲン原因食品を含まない代替ハンバーグを検討した。その結果，重量・体積変化率，食感において，一般的なハンバーグと同等なハンバーグ代替食の調理法を見出した。



また，実際に学校給食で提供された献立（パン，牛乳，シチュー，オムレツ，サラダ）を基に，卵・乳・小麦を含まない代替食献立を考案した。卵の代わりに魚のすり身とカボチャを用いて，見た目を似せた。また乳の代わりに豆乳を，小麦の代わりに米粉を使用し，カルシウムの補強としてサクラエビ，小松菜を使用することで，給食と同等の栄養価を担保させた。

今後は，ハンバーグのつなぎを変化させた際の品質変化や，シチューやカレーにとろみをつける食材の粘度を予測することで，幅広いメニューにおいて通常食と遜色ない品質の代替食調理法の提示を目指す。



代表論文

- ① 柴田（石渡）奈緒美，松波由奈，大場君枝，岐阜市の学校給食における卵と小麦の使用頻度の実態，日本調理科学会誌（印刷中）
- ② 柴田（石渡）奈緒美，川口恵美，安藤祥充，稲川幹夫，星田博文，生おからを主原料とした加工食品の開発，日本調理科学会誌，49，355-361，2016
- ③ Shibata-Ishiwatari, N., Fukuoka, M., Sakai, N. Changes in the viscosity of expressible water in meat during heating: description based on the denaturation kinetics of water-soluble proteins, Food Science and Technology Research, 21, 525-530, 2015
- ④ Ishiwatari, N., Fukuoka, M., Hamada-Sato, N., Sakai, N. Decomposition kinetics of Umami component during meat cooking, Journal of Food Engineering, 119, 324-331, 2013
- ⑤ 石渡奈緒美，福岡美香，為後彰宏，酒井昇，真空調理法に基づく畜肉加熱処理時のタンパク質変性分布および微生物挙動の予測，日本食品工学会誌，14，19-28，2013

共同研究希望分野

- (1) 調理過程における食材変化の分析および品質変化の可視化（シミュレーションの基盤構築）
- (2) 食育教育に関わる教材開発



研究主題：

実験によるハドロン のクォーク構造の解明

准教授 住浜 水季 Mizuki Sumihama



研究のキーワード

素粒子・ハドロン・検出器

所属：岐阜大学 教育学部
役職：准教授
E-mail：sumihama@gifu-u.ac.jp
専門分野：ハドロン物理学実験

ジェンダーなるものに一言二言

我々の分野は数十人・数百人規模で実験を行っています。この分野でも（！？）女性は少数派です。しかし、どの実験グループにも女性はいます。女性がいることになんの違和感も不都合ありません。女性も周りの男性も。。。他分野の人たちから不思議がられることはありますが・・・むしろ、最近よくある“リケジョ”、“女性教員による・・・”や“女子大学院生による・・・”といった女性限定的なイベントに違和感を感じます。・・・とは言え、出産を機に仕事と家庭の両立に関してはジェンダーなるものを考えてしまう今日この頃です。

経歴

学歴
東京工業大学 理学部 物理学科卒
大阪大学 理学研究科 理学博士取得

職歴
大阪大学 核物理研究センター
東北大学 理学研究科

研究の概要



実験後 in ソレノイド磁石@LEPS2



実験中@LEPS

研究内容

ハドロンとは、素粒子である**クォーク**と呼ばれる粒子で構成される粒子の総称です。物質を細かく見ていくと、分子・原子でできているのがわかります。さらに原子は原子核と電子で構成されていて、原子核は陽子と中性子で構成されています。この**陽子・中性子**はさらにクォークで構成されています。陽子や中性子はハドロン粒子であり、ハドロンは大きく分けて2つに分けられます。3つの（構成子）クォークで構成される粒子を**バリオン**(baryon)と呼び、2つの（構成子）クォークで構成される粒子を**メソン**(meson)と呼びます。原子核を構成している陽子、中性子はバリオン粒子に属します。また、ノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士が予言したパイ中間子はメソン粒子に属します。

今までに数百種類ものハドロン粒子が見つかっていて、クォークで構成されることは分かっているのですが、どのようにハドロンを形成しているのか、なぜ、これだけたくさんの種類を作り出せるのか、詳しいことは分かっていません。さらに、未発見のハドロン粒子がまだまだ沢山あるといわれていて、4つや5つのクォークで構成される粒子の存在を示唆する実験データも出ています。これらの未発見の粒子や特殊な粒子を実験で見つけ、その性質を調べることで、物質の起源・構造を解明する研究を行っています。

研究をしている場所

大型放射光施設SPring-8/LEPS&LEPS2@兵庫県西播磨
高エネルギー加速器機構KEK/Belle & BelleII@茨城県つくば市

代表論文

1. Study of Excited Ξc States Decaying into Ξc and $\Xi + c$ Baryons, Phys.Rev. D94 (2016) no.5, 052011, Belle Collaboration
2. Backward-angle η photoproduction from protons at $E_\gamma = 1.6 - 2.4$ GeV, M. Sumihama *et al.* Phys.Rev. C80 (2009) 052201
3. Backward-angle photoproduction of π^0 mesons on the proton at $E_\gamma = 1.5 - 2.4$ - GeV, M. Sumihama *et al.* Phys.Lett. B657 (2007) 32-37
4. The $\gamma p \rightarrow K^+ \Lambda$ and $\gamma p \rightarrow K^+ \Sigma^0$ reactions at forward angles with photon energies from 1.5 - GeV to 2.4 - GeV, M. Sumihama *et al.* Phys.Rev. C73 (2006) 035214

共同研究希望分野

ハドロン物理・粒子検出器

研究主題：

* 近代日本の文明批評と文化受容 *

* 地域学としての郷土文学論 *

教授 **林 正子** Masako Hayashi



研究のキーワード

明治文学、大正文学、ドイツ思想・文化受容、文明批評、郷土文学、地域学、女性文学

所属：岐阜大学 地域科学部 地域文化学科
役職：教授・副学長（多様性人材活力推進担当）
E-mail：mhayashi@gifu-u.ac.jp
専門分野：日本近代文学・比較文学

著書



経歴

文学修士（岡山大学）
1980年 - 1987年 神戸大学大学院文化学研究科博士課程
（1984年 - 1986年 ミュンヘン大学 DAAD奨学生）
1987年 - 1989年 岐阜大学教養部 講師
1989年 - 1996年 岐阜大学教養部 助教授
（1994年 - 1995年 ハイデルベルク大学 客員教授）
1996年 - 岐阜大学地域科学部 教授
（2003年 - 2004年 ライプツィヒ大学 客員教授）
2010年 - 岐阜大学副学長・男女共同参画推進室長

研究の概要

1. 近代日本の文明評論におけるドイツ思想・文化受容の意義
日清戦争後から大正期にかけてのドイツ思想・文化受容による、近代日本の時代精神創出についての考察
2. 文学の創造契機としての風土論、地域学としての郷土文学論
自然環境としての風土が、文化を創造してゆく原動力になっていることを明らかにし、岐阜ゆかりの文学作品論を通して地域学の意義を問う試み
3. 日本近代小説における〈自己探究〉の様相と作家の手法
明治期以降の小説作品を対象とした、作家にとつての〈小説を書く〉ことの意義とその実現のための技法についての考究
4. 日本近代女性作家による自己表現獲得の営為と成果
明治10年代から第二次世界大戦後までの女性作家による文学活動とその表現形態を文学史的に位置づける試み

代表論文・著書

- 三元社編集部（編）『竹村民郎著作集完結記念論集』三元社 2015年12月 「「テエベス百門の大都」の交響」
 - 鷗外研究会（編）『森鷗外と美術』双文社出版 2014年7月
「森鷗外ドイツ三部作のイコノロジー：「絵画小説」の方法による作家の〈自画像〉創出」
 - 清田文武（編）『森鷗外『舞姫』を読む』勉誠出版 2013年4月
「〈エクソフォニー小説〉としての『舞姫』——実体験の〈翻訳〉という創作」
 - 神田由美子・高橋龍夫（編）『渡航する作家たち』翰林書房 2012年4月
「森鷗外 日本の〈エートス〉を求めて ドイツ体験による精神の閲歴」
 - 鈴木貞美（編）『Japan To-day』研究——戦時期『文藝春秋』の海外発信』作品社 2011年3月
 - 和田博文（監修）『コレクション・モダン都市文化 第65巻 海港都市・神戸』ゆまに書房 2010年12月
 - 小見山 章（監修）『森の国の風土論』地域自然科学研究所 2010年3月
「文学の創造契機としての風土——人間の自己了解から地域の内発的発展へ」
 - 日本近代文学会（編）『〈東海〉を読む——近代空間と文学』風媒社 2009年6月
「〈地域学〉としての〈郷土文学〉論——森田草平『煤煙』と江夏美好『下々の女』の〈故郷〉」
- 他 多数。

共同研究希望分野

* 日本近代・現代小説研究 * 日独文化比較研究 * 岐阜ゆかりの文学研究



研究主題：

eラーニング活用による 学習効果とモチベーション

教授 **高橋 由起子** Yukiko TAHASHI



研究のキーワード

eラーニング 看護教育 クリティカルケア

一言アピール

女性が働くためには家庭・職場の協力が不可欠です。100%の力で働くのではなく、ある時期は60%で合格と思って仕事を続けることが必要と考えています。そして、十分働ける時期が来たら、周りである「はた」を「楽」にできるような「はたたく」ができるいいと思っています。

所属：岐阜大学 医学部 看護学科
役職：教授
E-mail：yu-taka@gifu-u.ac.jp
専門分野：クリティカルケア看護 看護教育

経歴

1985年 岐阜県立衛生専門学校 卒業
2000年 岐阜大学 医学部 看護学科 助手
2004年 岐阜大学 大学院 教育研究科 学校教育学専攻（修士課程）修了
2016年 岐阜大学 医学部 看護学科 教授

研究の概要

eラーニングによる学習の効果と学習モチベーションについて研究しています。看護師は継続教育、自己教育力が必要な職業です。看護基礎教育でのeラーニングによる学習は、学習の取り組みは良いのですが継続という視点で、モチベーションを維持し続けるのが困難です。学生のうちから学習のためのモチベーションを維持するにはどうすればよいか、継続教育での自己教育力を高めていくための学習環境をどうしていくとよいのかについて研究をしています。

また、岐阜県内のクリティカルケア看護について知識の普及・質の向上を目指して、Gifuクリティカルケア看護情報研究会の活動を行っています。この研究会でクリティカルケア看護についてのトピックの提供、個々の医療機関が抱える課題等情報交換をしつつ、クリティカルケア看護に携わる看護師の質の向上を図るための環境について研究を行っています。

代表論文・著書等

高橋由起子, 松田好美, 伊藤美智子, 他：クリティカルケア看護に関する講演会に参加した看護師の参加動機と興味領域, 岐阜看護研究会誌, (7), 11-21, 2015.

高橋由起子, 宮川瑞穂, 臼井かおり, 他：学習支援システムへのアクセス方法の違いによる学習満足の比較, 岐阜看護研究会誌, (8), 53-64, 2016.

高橋由起子, 宮川瑞穂, 臼井かおり, 他：テキストマイニングによるドレーン固定疑似体験後の学びのレポート分析, 日本医療情報学会看護学術大会論文集, 17, 143-146, 2016.

共同研究希望分野

クリティカルケア看護, 看護教育, eラーニング

研究主題：

難治性卵巣がんの治療を目指して

学術研究補佐員 **鈴木 紀子** SUZUKI NORIKO



研究のキーワード

卵巣がん、鉄、低酸素、活性酸素

所属：岐阜大学大学院 医学系研究科 産科婦人科学
役職：学術研究補佐員
E-mail：non@gifu-u.ac.jp
専門分野：婦人科腫瘍学・分子生物学

一言アピール

卵巣がんはサイレントキラーとも呼ばれるように初期症状が殆どないため早期発見が難しく、8割以上が進行期で発見されます。また再発すると殆どが治療抵抗性であるため、新たな治療法の開発が急務です。我々は下記の点に着目し、岐阜薬科大学薬化学教室(永澤秀子先生・平山佑先生)との共同研究を進めています。臨床・分子生物学・薬化学の連携を通し、多面的な視野を活かした新しい治療方法の開発を目指しています！

- 低酸素微小環境
- 酸化ストレス耐性
- 鉄依存性細胞死（フェロトーシス）

經歷

1994年3月	名古屋大学理学部分子生物学科卒業
1995年8月	Texas大学Austin 校植物学部留学
1997年3月	名古屋大学大学院理学研究科分子生物学修士課程修了
1999年3月	東京大学医科学研究所癌シグナル研究分野技術補助員
2000年10月	名古屋大学大学院医学研究科腫瘍生物学研究補助員
2012年3月	岐阜大学大学院医学系研究科産科婦人科学博士課程修了
2012年4月	同研究室にて学術研究補助員

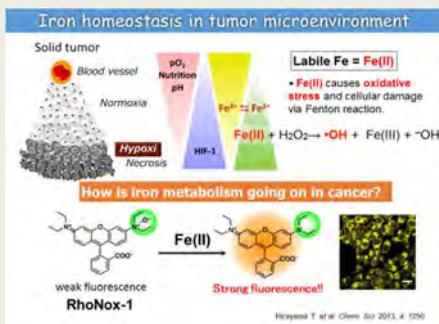
研究の概要

卵巣がんは、近年の女性のライフスタイルの変化に伴って日本を含め欧米諸国での発生率は年々増加傾向にあり、新たな治療法の模索が世界中で行われているが、我々は「**低酸素**」「**鉄**」「**酸化ストレス**」に着目し、研究を進めている。

がん組織の内部は、急激ながん細胞の増殖のため機能的な血管新生が不十分となり、低酸素となっている。そのような低酸素微小環境において治療抵抗性のがん細胞が発生し、維持されている可能性がある。

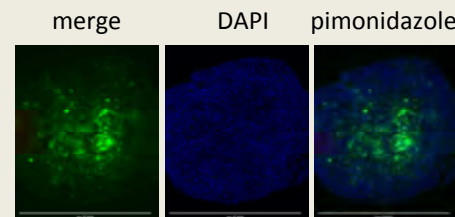
我々は、これまでに卵巣がん細胞株CaOV3を用いて、腫瘍組織の状態に近い三次元低酸素モデルとしてのスフェロイドを作製し、低酸素マーカーであるピモニダゾール染色によりその内部が低酸素であることを示した(右図)。また、永澤らが開発した低酸素特異的細胞毒TX-402により、内部の低酸素領域にある細胞が死滅することを確認した。

岐阜薬科大学薬化学研究室で世界に先駆けて鉄(II)イオン選択的蛍光プローブRhoNox-1(Hirayama *et. al.* *Chem. Sci.* 4, 1250-1256, 2013)が開発された。さらに、平山らは多様な局在性と検出波長を有する機能性二価鉄センサーへと展開し、これまで生細胞内での検出が困難であった、二価鉄の検出に有用な研究ツールがもたらされた。そこで、これらを用いて、各種婦人科がんにおける鉄代謝の解析をすすめている(下図)。



鉄イオンは生体内で三価あるいは二価の状態が存在しており、二価鉄イオンが過剰に存在すると、その高い反応性のために、毒性の高い活性酸素の産生源となって、遺伝子やたんぱく質に傷害をもたらす。さらに、鉄過剰による発がんの進行が示唆されており、鉄ホメオスタシスの分子制御機構の解明研究が世界的に繰り広げられている。一方、鉄依存的細胞死＝フェロトーシスは、細胞死の一形態として近年提唱された概念で、腫瘍制御に関わるということで現在盛んに研究が進められており、その機序は十分明らかになっていない。そこで我々は現在、難治性卵巣がんをはじめ、子宮頸がんについてもフェロトーシス誘導による治療の可能性を探っている。今後は酸化ストレス耐性並びに鉄ホメオスタシス・低酸素と予後不良や悪性度との関連性を明らかにし、新たな治療法開発を目指す。

それには、多面的な視点が重要であると考えているため、異分野の方々とのつながりを大切にしながら、「sense of wonder」を忘れず研究を進めていきたい。



代表論文

- Suzuki N, Imai A: Evidence that lack of ligand-binding domain correlates with nuclear distribution of unliganded human androgen receptor and loss of transactivation activity. *Gynecol Endocrinol*, 27(11): 940-943, 2011
- Nozawa-Suzuki N, Nagasawa H, Ohnishi K, Morishige K-I : The inhibitory effect of hypoxic cytotoxin on the expansion of cancer stem cells in ovarian cancer. *Biochemical and Biophysical Research Communications (BBRC)*.20; 457(4):706-711. 2015
- Mizuno T, Suzuki N, Makino H, Furui T, Morii E, Aoki H, Kunisada T, Morishige K: Cancer stem-like cells of ovarian clear cell carcinoma are enriched in the ALDH-high population associated with an accelerated scavenging system in reactive oxygen species. *Gynecologic Oncology*. 137(2):299-305. 2015
- 活性酸素と酸化ストレス応答ー分子メカニズムの新たな展開 野澤義則、鈴木紀子 東海学院大学紀要 10, 1-13. 2016

共同研究希望分野

- (1) 婦人科がんとフェロトシス (2) 婦人科疾患における鉄と酸化ストレス、低酸素との関連
(3) 女性のロングライフを通じた健康維持(多面的アプローチ)



研究主題：

Neo! Milk Science

お母さんと赤ちゃんをつなぐ
不思議な食べ物ミルク

助教 **稲垣 瑞穂** Mizuho INAGAKI

研究のキーワード

ミルク、ラクトフォリン、腸内細菌、母子間情報伝達

一言アピール

お母さんの胎盤ベクトルにくるまりながら無菌で育った赤ちゃんは、誕生とともに色んな微生物との共生が始まります。へその緒で繋がってお母さんからもらっていた栄養は、誕生とともに、お母さんのおっぱいからもらうようになります。生命の誕生にはダイナミックな環境変化・生理的変化があり、赤ちゃんが無事にその変化に対応できるよう支えているのは、きっとミルクでしょう。

栄養・病原体防御を中心に展開してきた従来のミルク研究をベースに、私は、哺乳の意義：どうしてミルクが必要なのか？という大きな問いを掲げて研究を進めていきたいです。ミルクの秘密を明らかにすることで、こころがちょっと温かなような、いのちを育む素晴らしさを発信していけたらと思っています。以下の概要では、私の手がけるテーマの一つ、ラクトフォリンについて触れています。

所属：岐阜大学 応用生物科学部
役職：助教
E-mail：mizuho@gifu-u.ac.jp
専門分野：食品素材化学

経歴

平成17年3月
岐阜大学 大学院 農学研究科 生物資源利用学専攻 修了
平成22年3月
岐阜大学 大学院 連合農学研究科 生物資源科学専攻 修了
博士（農学）取得
平成21年4月～平成22年3月
日本学術振興会特別研究（DC2）
平成22年4月～
岐阜大学 応用生物科学部 学術研究補佐員 等
平成27年9月～
神戸大学 自然科学系 先端融合研究環 学術研究員
平成28年3月～
岐阜大学 応用生物科学部 助教

研究の概要

1. ラクトフォリン（milk GlyCAM-1）

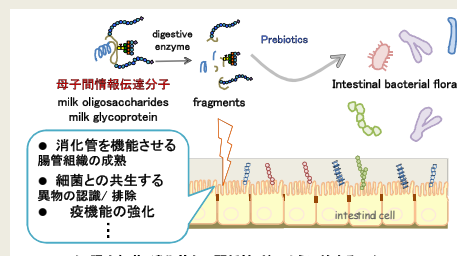
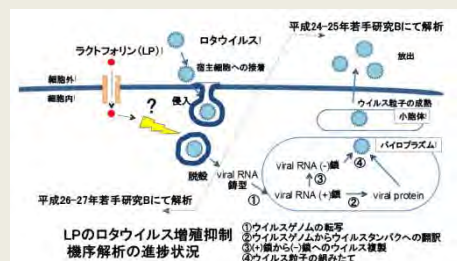
牛乳に含まれる機能未知のタンパク質であるラクトフォリン。免疫の要となるリンパ球のホーミング現象を司る分子・血管内皮GlyCAM-1と高い相同性を示すことから、milk GlyCAM-1という別名を持ちます。しかしながら、milk GlyCAM-1には、血管内皮GlyCAM-1のような生命現象の根幹に関わるような決定的な役割が見つかっていません。

2. ラクトフォリンは「細胞の中に入ってから」大活躍する！

ウイルスは自分自身で複製ができません。細胞に侵入し、細胞の複製装置をハイジャックして（細胞に、細胞用タンパク質を作っていると勘違いさせて）子孫を残します。この複製に関してウイルスも命懸けです。

ところが、あらかじめラクトフォリンを与えた細胞に、その後、ウイルス感染を行うと、どういうわけか、ウイルスの企み（ハイジャック）は失敗に終わることを見出しました。抗体やラクトフェリン（Lf）ではこのような効果は見られません。ラクトフォリンは、細胞に侵入してきた賢いウイルスから、どうやって細胞を守っているのでしょうか（上図）。

難しい問いですが、この謎が解けたとき、教科書を書き換えるような、ミルクの新しい役割が見えてくるはずです。



代表論文

- 稲垣瑞穂：牛乳タンパク質による腸感染症のコントロール。日本病態生理学会雑誌, 2015.
- Inagaki, M. et al.: Bovine κ-casein inhibits human rotavirus (HRV) infection via direct binding of glycans to HRV. *J. Dairy Sci.*, 2014.
- Inagaki, M. et al.: Multiple Dose Therapy with Bovine Colostrum Confers Significant Protection against Diarrhea in a Mouse Model of Human Rotavirus-Induced Gastrointestinal Disease. *J. Dairy Sci.*, 96: 806-814, 2013.
- 稲垣瑞穂, 金丸義敬: ロタウイルス下痢症に対する牛乳タンパク質の利用性（総説）。ミルクサイエンス, 2011.

共同研究希望分野

- (1) 産婦人科、保育所等の赤ちゃんの育児に関する研究機関もしくは医療施設・保育施設 (2) 消化管に関する研究

研究主題：

食品加工工程の改良による食味改善



助教 **勝野 那嘉子** Nakako KATSUNO

研究のキーワード

食品加工，高付加価値化，香り，食感，食品の表面および内部構造

所属：岐阜大学 応用生物科学部
役職：助教
E-mail：nkatsuno@gifu-u.ac.jp
専門分野：食品加工学

一言アピール

岐阜大学に着任する前まで，食品メーカーに在籍し，ゴマ加工品に関して基礎的な研究から工場で生じる課題の解決まで幅広く行っていました。食品中には，多数の成分が混在し，その加工においては化学反応や酵素反応，物理的な変化など様々な現象が同時に生じるため，とても複雑です。一つ一つの現象を丁寧に解析し，積み重ねていくことで，より良い食品の開発，品質の改良，加工における課題の解決につなげることを目指しています。

経歴

2001年4月～2014年6月
株式会社 真誠（企画開発チーム，研究担当）
2004年4月～2007年3月
岐阜大学 連合農学研究科 生物資源科学専攻
2007年3月
博士（農学）取得
2014年7月
岐阜大学 応用生物科学部 助教

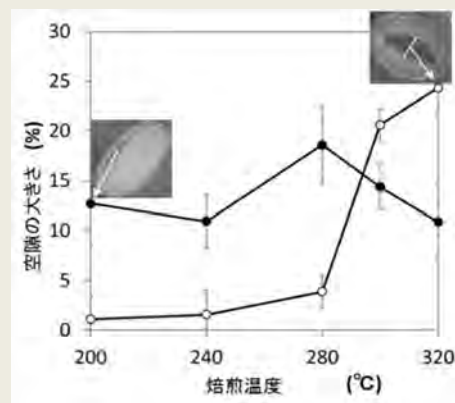
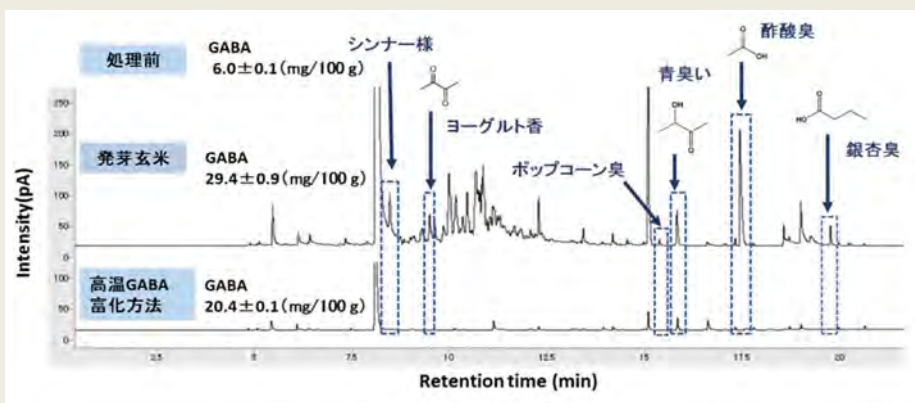
研究の概要

発芽玄米の香気特性に関する研究

γ -アミノ酪酸（GABA）は血圧上昇抑制効果などの機能性を有することから，GABAを多く含む発芽玄米が注目されています。しかしながら，発芽玄米は加工中に不快臭が生じ，食味に影響を与えることから問題となっていました。そこで，発芽玄米の不快臭物質を特定し，不快臭成分を低減したGABA富化条件の検討を行いました。その結果，発芽玄米の不快臭成分としてアセトイン，ジアセチル，有機酸類が同定されました。これらの物質は，GABA富化処理条件を変えることで抑制できることを明らかにしました。

煎りゴマの加工条件と食感の関係

煎りゴマは，その特有な香りやパリッとした食感が好まれ，日本食には欠かせない食材です。実際の加工工程において，煎りゴマの品質は，オペレーターの経験や勘によって制御されているのが現状であり，食感の定量的な評価が必要でした。煎りゴマの破断強度測定や内部構造の観察から，煎りゴマの食感には，種子中心部の空洞の大きさが重要であることを明らかにしました。さらに，加工条件を検討し，焙煎条件や焙煎前の吸水条件を変えることで，種子の中心部分に，より大きな空洞が形成され，食感を改善することができました。



代表論文

- Takenaka, N. et al. Microscopic observation and characterization of the oil bridge between dehulled-roasted sesame seeds. *Colloids Surf. B* 55: 131-137, (2007).
Katsuno, N. et al. Methods for Enrichment of γ -Aminobutyric Acid in Sesame Seeds. *Food Sci. Technol. Res.* 21: 787-791, (2015).
吉岡優，勝野那嘉子，西津貴久．発芽玄米の香気特性に関する研究．*美味技術学会誌*. In press. (2017)
Katsuno, N. et al. The effects of water absorption and roasting conditions on fracture properties and internal structure of sesame seeds. *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, In press. (2017)

共同研究希望分野

- (1) 食品加工時や保存時に生じる課題の解決 (2) 食品のおいしさ（香り，食感，外観）に関する研究



研究主題：

青果物の品質変化メカニズム 解明と品質保持技術の開発

助教 **タンマウォン マナスイカン** Manasikan THAMMAWONG

研究のキーワード

青果物, ポストハーベスト, 品質保持, 流通, 遺伝子発現

所属：岐阜大学 応用生物科学部
役職：助教
E-mail : pim@gifu-u.ac.jp
専門分野：ポストハーベスト生理学



一言アピール

消費者に高品質な青果物を安定的に提供するためには、収穫から消費に至るまで、適切な管理を行い、品質劣化を防止する必要があります。青果物は、収穫、荷役、輸送などの流通過程で、温度、外力、損傷など種々のストレスを受けることで、細胞のストレス応答や代謝変化によって品質が低下します。こうした青果物のストレス反応をシステムバイオロジーに基づき解析して品質変化メカニズムを理解することを通じて、品質保持のための前処理・包装・貯蔵・輸送の適正条件の解明と、その実現手法の開発を行います。

経歴

平成14年3月
チェンマイ大学 理学部 生物学科 植物生理学専攻 卒業
平成17年3月
弘前大学 大学院 農学生命科学研究科 生物生産科学専攻 修了
平成20年3月
岩手大学 大学院 連合農学研究科 生物生産科学専攻 修了
平成20年4月～平成25年3月
農研機構 食品総合研究所 研究員
平成25年4月～平成27年3月
日本学術振興会(JSPS)外国人特別研究員
平成27年5月～
岐阜大学 応用生物科学部 助教

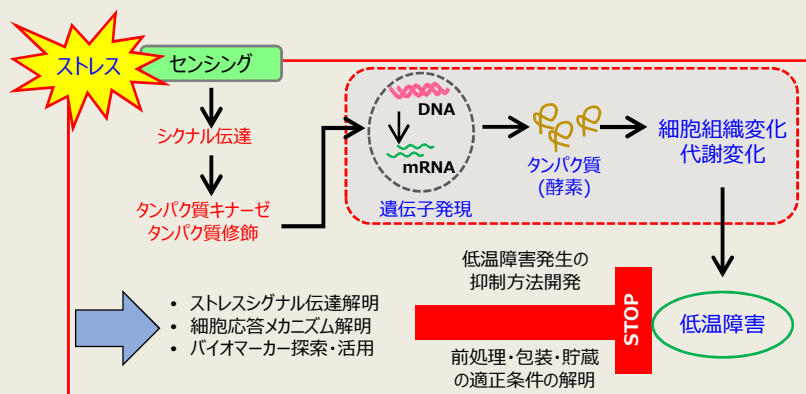
研究の概要

1. 収穫後の物流条件および品質保持対策が青果物のストレス応答・代謝変動・品質変化に及ぼす影響の解明に関する研究

収穫、調製、選別、包装、荷役、輸送、保管・貯蔵などにおいて発生する圧迫、静荷重、振動、衝撃などは、青果物に物理的ストレスを与え、損傷を生じさせます。易損傷性の青果物は、これらの物理的ストレスを受けると外部（表層）や内部に傷害が生じるとともに、生理的および化学的にも大きく影響を受け、代謝変動や品質変化をきたします。物理的ストレス・切断傷害を受けた青果物では、様々な生理的・化学的变化が生じ、栄養・機能性成分や嗜好特性を変化させます。そこで、その影響を最小化するための保存手法の開発を目指します。

2. 流通過程における青果物の低温ストレス応答メカニズム解明及び低温障害抑制法の開発

低温環境下は、青果物の細胞代謝や老化速度を低下させるばかりでなく、微生物による分解・腐敗を抑制し、青果物の貯蔵期間を延ばすことができます。しかし、低温感受性の青果物はある臨界温度以下で生理的变化を伴う低温障害が発生し、品質が急速に低下します。これまで、低温障害発生の抑制を目的とした研究がなされてきましたが、低温障害を誘発する低温ストレスシグナル伝達やそれに付随する細胞応答など生物分子化学的視点での研究はほとんど行われていません。そこで、低温障害耐性を付与あるいは強化する実用的な方法の開発を目指します。



代表論文

- Thammawong, M. et al.: Evaluating the efficacy of modified atmosphere packaging (MAP) to reduce mechanical injury and quality loss of broccoli. ISHS Acta Hort., 1120:49-56, 2016.
- Thammawong, M. et al.: Oscillations of respiration-relating gene expression in postharvest cabbage head under controlled atmosphere (CA) storage. ISHS Acta Hort., 1091:303-310, 2015.
- Thammawong, M. et al.: Modeling of the respiration rate and gene expression patterns of cabbage in response to mechanical impact stress using a modified Weibull distribution. Postharvest Biol. Technol., 96:118-127, 2014.
- タンマウォン マナスイカン：青果物の輸送時における衝撃ストレス応答解析に関する生理学的研究（総説）. 日本食品保蔵科学会誌 40:79-85, 2014.

共同研究希望分野

- ・ 鮮度保持、長期間の貯蔵・流通における品質保持技術の開発、国産農産物の輸出対策技術

研究主題：

遺伝資源の保全と活用

助教 **山根 京子** Kyoko YAMANE



研究のキーワード

遺伝資源、系統進化、DNAマーカー、ワサビ

所属：岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学課程
役職：助教
専門分野：植物遺伝育種学

一言アピール

2女の母です。京都出身の関西人です。
最近、出前講義で高校に行くと、
「上沼恵美子に似てますね」
とよく言われるようになりました。
自称『ワサビ応援隊長』として、これからも関西弁を駆使して活動続ける所
存です。
AKB48ならぬRKB44（理系婆44歳）は若いリケジョの方々を応援しており
ます。

経歴

京都大学大学院農学研究科博士課程修了。ナショナルバイオリソースプ
ロジェクトKOMUGI ポスドク研究員。大阪府立大学大学院生命環境
科学研究科助教を経て、2010年より現職。博士（農学）。

研究の概要



遺伝資源の重要性が見直されています。コムギの世界的なコレク
ションを系統保存している研究室の出身であり、植物資源の探
索、分類、分析、保全まで、幅広く行ってきました。主に野生種
を含むソバ、コムギの仲間たちを研究材料としてきましたが、
2005年よりワサビ研究に力を入れています。ワサビはどこからきて、
なぜ日本でのみ利用されるようになったのか、その謎を解く鍵を求
めて日本全国各地と中国雲南省の山奥で植物調査を実施して
きました。主にDNA分析により、ワサビが日本固有種であることな
どを明らかにしています。当初はワサビの起源と進化を明らかにす
べく、材料収集を行って来ましたが、現地で聞き取り調査を行うう
ちに、栽培植物としてのワサビが危機的な状況にあることを知りま
した。ワサビは日本の食文化に深くかかわってきた栽培植物です。
環境の変化にともない山からワサビがどんどん姿を消し、伝統的な
栽培農家や品種が消失する危機を救うべく、植物資源と栽培に
関する技術や知識などの情報の記録と保全活動を行っています。

ワサビは、森林が65%を占める山国である日本において、古くから資源を保全しながら利用してきました。守るだけではなく同時に
利用する—これからも先人にならい、持続的な資源利用を目指すべきだと考えています。日本の誇れる遺伝資源としてのワサビが
持続的に栽培され、利用されるよう、ワサビの持つ力を理解し、最大限にその力を発揮できるような品種改良を目指し、基盤情
報の整備をしています。具体的には、「なぜ、ワサビはからいのか」を、分子レベルで明らかにするために、世界に先駆けてワサビゲノ
ムプロジェクトを立ち上げ、辛味成分生合成の進化プロセスの解明や、品種判別マーカーの作成などを行っています。

代表論文

Genetic Differentiation, Molecular Phylogenetic Analysis and Ethnobotanical Study of *Eutrema japonicum* and *E. tenue*
in Japan and *E. yunnanense* in China Kyoko Yamane, Yasuaki Sugiyama, Yuan-Xue Lu, Na Lü, Kenichi Tanno, Eri
Kimura, and Hirofumi Yamaguchi The Horticulture Journal 85巻(1), 46 ~ 54頁 2016年

共同研究希望分野

細胞遺伝学、生化学（具体的には成分分析や官能試験など）



研究主題：

犬・猫における 周術期低体温予防に向けた研究

准教授 **柴田 早苗** Sanae SHIBATA



研究のキーワード

臨床獣医学、犬、猫、**獣医麻酔学**、アミノ酸輸液

所属：岐阜大学 応用生物科学部 共同獣医学科
役職：准教授
E-mail：shiba211@gifu-u.ac.jp
専門分野：獣医麻酔学

これまでの共同研究内容

研究代表者として、**周術期管理**に関する研究を実施しています。

- アミノ酸輸液による周術期低体温予防に向けた研究
- 動物用包帯の作成に向けた研究

研究分担者として、**犬・猫・ブタの麻酔**を担当しています。侵襲を伴う場合には、2種類以上の鎮痛薬を併用しています。準備が必要ではありますが、他の動物種の麻酔も対応可能です。

経歴

- 2010年3月 岐阜大学 大学院 連合獣医学研究科 修了
- 2010年4月 東京農工大学 農学府 特別研究員
- 2010年10月 岐阜大学 応用生物科学部 附属動物病院 助教
- 2014年4月 岐阜大学 応用生物科学部 附属動物病院 准教授

研究の概要

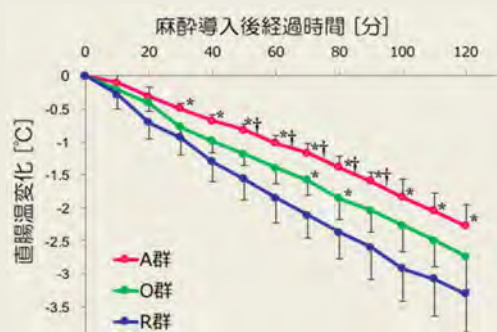


図. 麻酔導入1時間前から導入1時間後までの総合アミノ酸製剤輸液による体温低下抑制効果。A群：総合アミノ酸製剤、O群：オクトレオチド+総合アミノ酸製剤、R群：酢酸リンゲル輸液剤。

周術期低体温は、術後の創部感染の増加、出血量の増加、心臓合併症の増加、麻酔からの覚醒遅延といったさまざまな問題を引き起こす。そのため、麻酔中の体温管理は非常に重要とされているが、犬や猫などの小動物では**体重あたりの体表面積が大きい**ために麻酔中の体温低下が早く、体温管理は困難である。そこで、犬・猫における周術期低体温予防法の開発を目的として、研究展開している。

人やげっ歯類の研究において、アミノ酸輸液によって周術期の体温低下を予防できることが報告されたことを発端に、人におけるアミノ酸輸液による周術期低体温対策法は一般化している。しかしながら、犬・猫におけるデータはほとんど発表されていない。

我々のこれまでの研究から、犬に対して麻酔前から総合アミノ酸製剤を投与すると、用量依存性に麻酔による体温低下が軽減されることが明らかになった。また、ラットや人同様、アミノ酸輸液によってインスリン分泌が促進されることも示された。

さらに、ソマトスタチンアナログであるオクトレオチドによってインスリン分泌を抑制すると、アミノ酸輸液による体温低下軽減作用が減弱した。以上のことから、**犬においても周術期低体温対策としてアミノ酸輸液が有効であり、これにはアミノ酸輸液によって誘導されたインスリンが関与している**と考えられる。現在は、もっとも有効なアミノ酸輸液の投与条件を確立するとともに、アミノ酸輸液動態を明らかにし、アミノ酸輸液による熱産生メカニズムを解明すべく研究を継続している。

代表論文

1. Takashima, S., Shibata, S., Yamada, K., Ogawa, M., Nishii, N. and Kitagawa, H. Intravenous infusion of amino acids in dogs attenuates hypothermia during anaesthesia and stimulates insulin secretion. Vet Anaesth Analg. 43(4): 379-387, 2016.
2. Matsunami, H., Sasaki, N., Yoshikawa, T., Takemura, M., Watanabe K., Shibata, S., Kawabe, M., Matsubara, T., Murakami, Y. and Hayashi, M. Gastro Jejunal Inner Lumen Bypass Device Inhibits the Growth of Pigs. Journal of Diabetic Complications & Medicine. 1(1): 103-106, 2016.
3. Nagata, N., Shibata, S., Sakai, H., Konno, H., Takashima, S., Kawabe, M., Mori, T., Kitagawa, H. and Washizu, M.: Gallbladder Lymphoma in a Miniature Dachshund. J Vet Med Sci. 77(1): 117-21, 2015.

共同研究希望分野

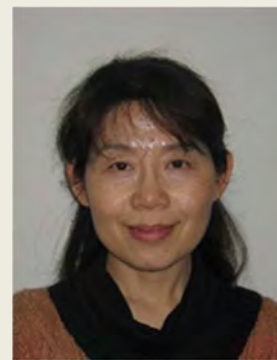
動物の麻酔が関わる研究・周術期管理に関する研究



研究主題：

環境計測評価 -大地と物質をみる・はかる-

准教授 魏 永芬 Yongfen WEI



研究のキーワード

リモートセンシング、植生分布、セシウム、環境動態

所属：岐阜大学 流域圏科学研究センター
役職：准教授
E-mail：weiyf@gifu-u.ac.jp
専門分野：環境計測学

一言アピール

とっても地味な研究ではありますが、力になってくださる同士ができれば大変嬉しいです。



経歴

平成14年3月
岐阜大学 大学院 連合農学研究科 博士課程 生物環境科学専攻
修了（農学博士）
平成15年5月
独立行政法人農業環境技術研究所 期間雇用受託研究者
平成17年6月～平成21年11月
岐阜大学 流域圏科学研究センター 産官学連携研究員/特別協力研究員/特定研究補佐員
平成21年12月～ 流域圏科学研究センター 准教授

研究の概要

・ リモートセンシング技術を用いた環境計測評価

リモートセンシング技術による対地の遠隔的な観測は、人工衛星のもつ「鳥の目」（高い空から鳥になったつもりで眺めて広域を鳥瞰的に把握）、「虫の目」（人間の目で感知できない紫外線、赤外線などの波長を感知できる）、「化石の目」（大袈裟ですが、衛星ランドサットの画像であれば今から45年前からの時系列情報が記録されているため過去の状況を知ることができる）を融合的、複合的に活用する技術とされています。衛星による対地観測データの取得のシステム化に伴い、この技術は生態環境、農業、林業、都市変遷等の研究分野に広く応用され、時空分布およびその変化の情報を取得するための重要な手段となっています。本研究は、衛星データや現地調査結果、既存の情報を用いて、岐阜県や中国西北部における土地被覆やバイオマスの時空間変化、ならびに土地被覆変化がもたらした河川水質への影響を定量的に評価することで、土地利用の実態は勿論のこと、とりわけ植生被覆の変遷、並びに土地利用が河川水質への影響を明らかにし、地域の生態保全と環境改善につながる方策に資する情報として提供することを目的としています。

・ 室内実験に立脚した植生-土壌生態系におけるセシウムの動態評価

2011年3月11日の福島第一原子力発電所事故により、放射性核種セシウム137が自然環境に放出され、福島県の森林や農地の多くが汚染されました。特に、森林は福島県の土地面積の約7割を占めているため、セシウムによる汚染問題への対処は一層困難となり、県の林業や木材産業に与える影響は著しく大きいです。また、福島原発周辺水道用や農業用の大規模ダム貯水施設の底泥には、降雨時に森林域から川を伝って流入したセシウムが高濃度でたまり続けていることが環境省の最近に行った調査から判明されているため、水道水の安全は勿論、農業用水を介して農地がセシウムに再汚染されることも強く懸念されています。

本研究では、雑草等の林床植生の器官別でのセシウムの蓄積能力、植生-土壌間セシウムの移動、土壌からセシウムの流出の諸特性を林床植生の異なる成長段階にて綿密に評価し、林床植生と吸着材の併用によるセシウムの森林樹木への移行と水域への流出の同時抑制の可能性を明らかにするとともに、セシウムの森林樹木への移行と水域への流出の抑制に最も有効な吸着材と林植生の組合せの提案を目指します。

代表論文

- Quantitative assessment of the nitrogen fixation by forest vegetation using Landsat TM data. International Journal of Remote Sensing, Vol. 25, pp.839-857, 2004.
- Fugacityモデルを用いた有機化学物質の環境中挙動解析に及ぼす土壌深さの影響, 環境科学会誌, Vol. 19, No. 2, pp. 99-112, 2006.
- Development of global scale multimedia contaminant fate model: incorporating paddy field compartment, Science of the Total Environment, Vol. 406, pp. 219-226, 2008.
- Land use pattern and its impact on water quality based on buffer analysis in Fenghe River Basin, Bulletin of Soil and Water Conservation, 34(4), pp. 308-312, 2014.

共同研究希望分野

- (1) 土壌、植生への物質蓄積、溶出の評価
- (2) 植生、土壌、水の3媒体間における物質の移送などの動態解析評価

研究主題：

地域の防災力向上に向けた研究

准教授 **小山 真紀** Maki KOYAMA

研究のキーワード

地域防災，自助・共助・公助，人材育成，防災活動団体

一言アピール

現在取り組んでいるテーマは，地域防災人材育成プログラムの開発とプログラム評価を通じたマネジメントに関する研究，災害における死傷者発生メカニズムの解明，生きづらさ学の構築などがあります。

地域防災科学は，一つの独立した分野ではなく，災害という場を通じてあらゆる分野をつなぐ学問です。そのため，私の研究でも，入力側（地震動～構造被害など災害事象）と人の被害，人間行動，生活再建など，分野の拡がりだけでなく，時空間的にも広い視点で問題を扱っています。災害時だけでなく，日常まで含めているような事をつないで考えることで，いろんな世界が見えてきます。

研究の概要



災害時の人の死傷に関わる調査を通じて，死傷者発生メカニズムの解明と，それに基づく減災対策に関する研究を行っています。

近年の研究では，清流の国ぎふ 防災・減災センターにおける防災人材育成プログラムの開発とプログラム評価手法の検討，そしてプログラム評価を通じたマネジメントの実現に関する研究，持続可能な防災組織に関する研究を進めています。また，東日本大震災における津波による死亡者の分析から，津波による死傷に関わる地形的要因と社会的要因の分析を，熊本地震における倒壊家屋からの救助事例調査への協力など，死傷者発生メカニズムの解明を通じた減災対策の検討を行っています。

さらに，これらの成果を災害への備え，平時の暮らしやまちづくりに反映するための方策について，関係研究者と協力しながらワークショップなどの手法を使いながら実施しています。



代表論文

- Katsuichiro Goda, Grace Campbell, Laura Hulme, Bashar Ismael, Lin Ke, Rebekah Marsh, Peter Sammonds, Emily So, Yoshihiro Okumura, Nozar Kishi, Maki Koyama, Saki Yotsui, Junji Kiyono, Shuanglan Wu and Sean Wilkinson: The 2016 Kumamoto earthquakes: cascading geological hazards and compounding risks, Front. Built Environ. 2:19. doi: 10.3389/fbuil.2016.00019
- 四井早紀・小山真紀・古川愛子・清野純史: 東日本大震災における福島県内市町村を対象とした避難ルート特性と死亡率の分析, 地域安全学会論文集, 27, pp.85-93, 2015.

共同研究希望分野

- (1) 教育プログラムの開発，プログラム評価（アクションリサーチによる開発と評価と改善のマネジメント）
- (2) 心理学でつなぐ分野横断研究（社会や人が関わる問題は，審理の問題を避けて通れない。心理学という共通言語を用いて分野を超えた共通のモノサシを使った横断研究）
- (3) 生きづらさ学の構築（対処療法から，分野を超えた共通の問題構造の発見，系統化に向けて）



所属：岐阜大学 流域圏科学研究センター
役職：准教授
E-mail：maki_k@gifu-u.ac.jp
専門分野：地域防災科学

経歴

- 1998年4月 日本電信電話株式会社 入社
- 1999年4月 (財)地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所 研究員
- 2010年4月 京都大学大学院工学研究科 特定研究員を経て同大学医学研究科・特定准教授
- 2015年6月 岐阜大学流域圏科学研究センター准教授（清流の国ぎふ 防災・減災センター兼任）
- 現在に至る 博士（工学）



研究主題：

微生物燃料電池を用いた 省エネ型排水処理に関する研究

准教授 **廣岡 佳弥子** Kayako HIROOKA



研究のキーワード

微生物燃料電池、省エネ型排水処理、再生可能エネルギー

所属：岐阜大学 流域圏科学研究センター

役職：准教授

E-mail : khirooka@gifu-u.ac.jp

専門分野：環境微生物工学 廃水処理工学

一言アピール

現代社会は大量のエネルギー消費の上に成り立っており、排水処理も例外ではありません。微生物燃料電池は排水処理からのCO2排出量削減の切り札となる可能性を秘めた技術であり、実用化を目指して頑張っています。

微生物燃料電池は、微生物、排水処理、電気化学、材料工学など複数の分野が融合した学際的研究ですので、他分野の専門家の方と連携して進めていきたいです。特に、電極を構成する材料の省コスト化を推進したいので、炭素材料や触媒、高分子材料分野の方との共同研究希望です。

経歴

2005年9月

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 環境学専攻
博士課程修了 博士（環境学）

2005年10月

東北大学大学院 農学研究科 研究支援者

2009年12月

岐阜大学 流域圏科学研究センター 特任助教

2011年4月

岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授

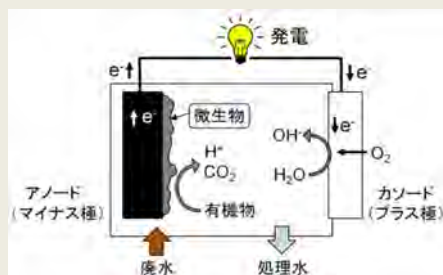
研究の概要

私たちは、現代的な日常生活の中で大量の水を消費し、そして汚染された水を廃水として排出しています。これらの廃水を処理せずに排出すると、河川や湖沼などの水環境を汚染するため、廃水の浄化を行う必要があります。しかし、廃水の処理には大量のエネルギーが必要となります。その一方で、廃水中に含まれる主要な汚濁物質である有機物は潜在的に大きなエネルギーを有していると言われています。そのため、単に廃水を浄化するだけでなく、そこに含まれるエネルギーを回収して有効利用しようとする研究が、盛んに行なわれています。

微生物燃料電池は、電極に電子を渡すことができる特殊な微生物を利用し、さらに燃料電池の技術を組み合わせることによって、廃水中からの有機物除去と同時に電気エネルギーの回収も可能とした新しい技術です。従来の排水処理法との大きな違いは、有機物除去に伴う酸化還元反応を、アノードの有機物酸化反応と、カソードでの酸素還元反応に分けることにより、電気エネルギーを取り出せるようにしたことです（図1）。発電量はまだまだ大きくありませんが、有機物除去の能力に関しては、廃水の組成によっては従来の排水処理に匹敵する水準にまで高まっているといわれており、早期の実用化が期待されています。

我々の研究グループでは、微生物燃料電池の実用化に向けて、低コスト化や処理水質の向上、発電能力の向上など、様々な研究を行っています。低コスト化については、電極材料、特にカソードで用いられる白金触媒のコストが大きいので、安価なカソード触媒の探索を行っています。また、カソードの防水加工

法について、安価な材料の使用および工程の簡易化、必要エネルギーの削減なども試んでいます。一方、処理水質の向上については、微生物燃料電池では基本的に有機物のみが除去可能ですが、廃水からはリンや窒素などの栄養塩も除去する必要があります。そのため検討を行っています。近年では、微生物燃料電池を用いて、廃水からリンの除去・回収ができるということを発見し、世界で初めてそれを示しました。また現在は、微生物燃料電池を利用した廃水からの窒素除去の研究も行っています。



微生物燃料電池の構造と原理



実験に用いている微生物燃料電池

代表論文

1. A. Motoyama, O. Ichihashi, K. Hirooka, Measurement of pH distribution near the air-cathode of a single-chamber microbial fuel cell using location sensor-equipped microelectrodes, *Electrochemistry Communications*, 72, 32-35, (2016).
2. O. Ichihashi, K. Matsuura, K. Hirooka, T. Takeguchi, Application of Zirconium-based Materials as a Catalyst of Air-cathode in Microbial Fuel Cells, *Journal of Water and Environment Technology*, 14(2), 106-113, (2016).
3. Osamu Ichihashi*, Kayako Hirooka*, Removal and recovery of phosphorus as struvite from swine wastewater using microbial fuel cell, *Bioresource Technology*, 114, 303-307, (2012) (*co-first authors).

共同研究希望分野

微生物燃料電池に適した電極材料の開発



研究主題：

大学生の健康実態の解明 （国際比較研究） 日本人の生活習慣病の実態調査

教授・センター長 **山本 真由美** Mayumi YAMAMOTO



研究のキーワード

若年成人、生活習慣病、国際共同研究

学会活動・社会貢献活動 など

学会活動：

全国大学保健管理協会（理事・国際連携委員長）
国立大学法人保健管理施設協議会（副会長、国際交流委員長）
日本糖尿病学会（認定専門指導医、学術評議員）
日本内分泌学会（内分泌代謝科専門指導医、評議員、監事）
日本病態栄養学会（認定専門医） ほか

社会貢献活動：

岐阜県国民健康保険連合会 データヘルスサポート事業 審査委員
岐阜県糖尿病対策推進協議会 幹事
岐阜大学医師会 代議員
岐阜県医師会 糖尿病対策委員会 委員長 ほか

賞罰：

1995年 日本女医会 研究奨励賞
1996年 米国内分泌学会 Travel Award
1998年 南フロリダ大学医学部 Superior Presentation Award
2009年、2015年 岐阜大学 職員表彰（優秀教育職員）
2013年 第29回国際女医会 Awards for Excellence

所属：岐阜大学 保健管理センター
大学院連合創薬医療情報研究科
医学部附属病院糖尿病代謝内科（併）
役職：教授・センター長
E-mail：myamamot@gifu-u.ac.jp
専門分野：内分泌・代謝学、健康科学

経歴

1987年 岐阜大学 医学部 医学科 卒業
1995年 医学博士(岐阜大学)
1995～98年 南フロリダ大学 医学部 生化学・内科学教室
ポスドク留学
（上原記念生命科学財団リサーチフェローシップ）
1998年 南フロリダ大学 経営学部
臨床医のための経営学修士(MBA for physicians)卒業
（フロリダ・日本研究所財団 奨学生）
1999～2003年 岐阜大学 医学部 第三内科 助手
2003～04年 岐阜大学 医学部附属病院 第三内科講師
2004年～現在 岐阜大学 保健管理センター 教授
2007年～現在 岐阜大学 大学院連合創薬医療情報研究科
医療情報学専攻 教授
2011年 同 医療情報学専攻 専攻長
2012年～現在 岐阜大学 保健管理センター センター長

研究の概要

若年成人におけるヘルスプロモーションは、生涯に渡る健康度向上のみならず、国民の医療費適正化、国力強化に有効であると考えられています。大学生の心と身体の実態を明らかにし、課題を抽出しその解決策を提言するような研究成果を目指しています。南フロリダ大学を中心とした国際共同研究を推進することにより、国際比較研究も進めています。また、岐阜市民の無作為抽出による糖尿病実態調査(Gifu Diabetes Study)も進めています。

南フロリダ大学医学部
との協定締結



代表論文・著書

「大学生の健康ナビ -キャンパスライフの健康管理-」 監修 山本真由美（岐阜新聞社発行）（和文著書）
「Health Management on Campus」 Publish Chief: Mayumi Yamamoto (Publish: GIFU SHIMBUN)（英文著書）
Original papers:
Yamamoto M. et al. The roles of protein kinase C β I and β II in vascular smooth muscle cell proliferation. **Exp Cell Res** 240: 349-358, 1998.
Yamamoto M. et al. A shift from normal to high glucose levels stimulates cell proliferation in drug sensitive MCF-7 human breast cancer cells but not in multidrug resistant MCF-7/ADR cells which overproduce PKC- β II. **Int J Cancer** 83:98-106, 1999.
Yamamoto M. et al. Acute glucose-induced down-regulation of PKC- β II accelerates vascular smooth muscle cell proliferation. **Am J Physiol Cell Physiol** 279:C587-595, 2000.
Sakuma H., Yamamoto M. et al. High glucose inhibits apoptosis in human coronary artery smooth muscle cells by increasing bcl-xL and bfl-1/A1. **Am J Physiol Cell Physiol** 283:C422-C428, 2002.
Okumura M., Yamamoto M. et al. Leptin and high glucose stimulate cell proliferation in MCF-7 human breast cancer cells: reciprocal involvement of PKC- α and PPAR expression. **Biochim Biophys Acta** 1592:107-116, 2002.
Nonoyama Y., Yamamoto M., et al. Negative effect of a previous diagnosis of diabetes on quality of life in a Japanese population: The Gifu Diabetes Study. **Diabetol Int** 7:148-154, 2016. 他

共同研究希望分野

若年成人の心身の健康に関する分野、国際共同研究や国際貢献研究などを希望します。

研究主題：

日本の若者の恋愛観・結婚観 (ジェンダー学・社会学)

特任助教 **相原 征代** AIHARA Masayo



研究のキーワード

恋愛観・結婚観・ジェンダー・フェミニズム

所属：岐阜大学 男女共同参画推進室
役職：特任助教
E-mail：aihara@gifu-u.ac.jp
専門分野：ジェンダー学・社会学

一言アピール

フランスに約7年、イタリアに約3年滞在していました。ジェンダー学・社会学が専門ですが、ヨーロッパの問題（移民・文化）にも興味あります。
ヨーロッパでの調査を伴う共同研究をしていただけると嬉しいです。

経歴

1998年	国際政治学修士（青山学院大学 大学院）
2002年	DEA社会学（フランス・トゥールーズ第二大学）
2006年	青山学院大学 国際政治経済学研究科 国際政治学専攻5年一貫制博士課程 単位取得満期退学
2011年	社会学博士（フランス・トゥールーズ第二大学）
2011-2015年	佐賀大学 文化教育学部 講師

研究の概要

現在の研究は、小山先生（流域）、船越先生（サポートセンター）、大崎先生（岐阜女子大学）との研究で、「生きづらさ学」の構築に取り組んでいます。その中では、以前からの研究である大学生カップルにインタビューをして、恋愛観・結婚観の聞き取りをする調査をしています。
参加者大募集です。

代表論文

- 「『男女不平等』としての結婚—日本とフランスとの比較から」藤田・宮野編『愛・性・家族の哲学③家族—共に生きる形とは？』ナカニシヤ出版, 38-66頁担当。
- 「恋愛・結婚の臨床学 — 現代日本社会の「恋愛のカタチ」」『臨床知と徴候知』作品社, 61-90頁担当。
- 「インターフェイス教育の可能性 — 『文化創造・現場力』の実践と教員・学生間の『相互作用』 — 」九州地区国立大学教育系・文系研究論文集, 1(1), 2013/10
- 「日本における少子化問題とその社会的背景の分析」EMPAN, (88):116-122, 2012/12, ERES出版社（原語はフランス語）
- 『日本における結婚の意義の文化・社会学的分析と母性の「個人化」の可能性に関する一試論』2011/06, 社会学博士論文（トゥールーズ第二大学（ミライユ）提出）（原語はフランス語）、全311頁。
- 『フェミニズム』における母娘関係の研究 — クリステヴァ・イリガライにみる『二元論』克服の試み — 1998/03, 国際政治学修士論文（青山学院大学時 国際政治経済学研究科 提出）

共同研究希望分野

社会学（特に量的調査）・法学



岐阜薬科大学

研究主題：

がん微小環境を標的とする創薬研究・ケミカルバイオロジー研究

教授 永澤 秀子 Hideko NAGASAWA

研究のキーワード

がん微小環境、低酸素、創薬、蛍光イメージング、鉄ホメオスタシス

一言アピール

永澤研究室では、有機化学を基盤として生命現象を「見る」、「理解する」、「制御する」ための機能性分子の創製に取り組んでいる。この研究を通して生体機能や病態解明、医療に貢献することを目指している。才能

豊かなスタッフ（平山祐准教授、辻美恵子助教）と個性あふれる学生たちが自由に発想し、ディスカッションしながら独創的な研究を進めている。



Nagasawa Lab, 2016

研究の概要

薬化学研究室は有機化学を基盤として、生体機能や病態の解明に挑むケミカルバイオロジー研究と、ユニークな創薬ターゲット分子を探索し、がん治療薬・診断薬の医薬品シーズの創出を目指すメディカルケミストリー研究に取り組んでいる。

① がん微小環境を標的とする治療薬の開発とケミカルバイオロジー研究

がん特有の生存環境（低酸素、低栄養、低pH）に着目し、これを標的とした医薬品開発研究を行なっている。この戦略により、既存のがん治療薬に比べて副作用が少なく、がん選択的が高い、高齢化社会に適した「人に優しい癌治療薬」の創製を目指す。このため、生薬や天然物からの活性分子の探索や分子設計・構造活性相関研究に基づく化学合成により、ケミカルライブラリーを構築し、独自の活性評価に基づいて、構造最適化を行い、新たな創薬シーズへと発展させる。一方、新規創薬標的を目指して、活性化化合物の化学修飾によるバイオプローブの開発と、その標的タンパク質の探索にも取り組んでいる。また、がんのホウ素中性子捕捉療法ホウ素キャリア、光線力学療法的光増感剤、放射線増感剤などの開発研究も行っている。

② in vivoイメージングを目指す分子イメージングプローブの開発

細胞や生体を生きたまま、非侵襲的に観察するための様々な分子プローブの開発に取り組んでいる。新しいがん診断法の開発を目指したがんの低酸素領域を可視化するための近赤外蛍光イメージングプローブの開発や、神経変性疾患解明のためのPETプローブの開発を行っている。

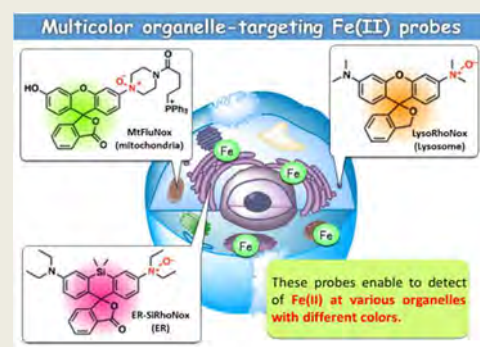
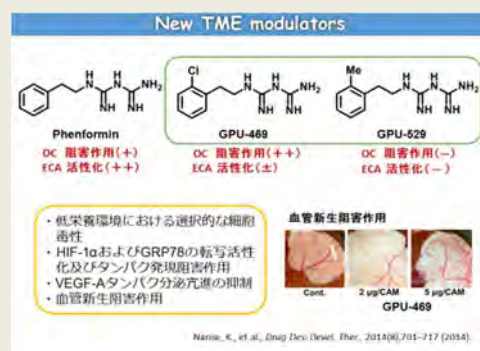
③ 鉄(II)イオン検出分子の開発を基盤とする生体内鉄代謝機構解明研究

生体内の鉄代謝は発がん、神経変性疾患、老化、炎症など様々な生命現象に関与している。そこで、我々が開発した世界初の鉄(II)プローブを基盤として鉄ホメオスタシスの解明を目指す研究に取り組んでいる。特に、鉄(II)イオンはこれまで細胞が生きたまま調べることができなかったため、その動態が分かっていないことが多く、鉄代謝研究は古いようでもまだまだ発展途上の領域であり、実際に、我々の開発した分子を使ってたくさんの共同研究が進行している。

所属：岐阜薬科大学 創薬化学大講座 薬化学研究室
役職：教授
E-mail hnagasawa@gifu-pu.ac.jp
専門分野：創薬化学、有機化学、ケミカルバイオロジー

経歴

1983年3月 岐阜薬科大学 薬学部 卒業
1988年3月 京都大学 大学院 薬学研究科 博士課程 薬学専攻修了（薬学博士）
1988年4月 慶應義塾大学 医学部 薬化学研究所 助手
1997年4月 徳島大学 工学部生物工学科 講師
2001年4月 徳島大学 工学部生物工学科 助教授
2004年9月 Johns Hopkins大学 医学部 客員助教授（2005年9月まで）
2006年4月 岐阜薬科大学 薬化学研究室 教授



代表論文

1. T Hirayama, H Nagasawa, Chemical tools for detecting Fe ions. *J Clin Biochem Nutr*, 60(1),39-48(2017).
2. 辻美恵子、永澤秀子 ペプチド結合ホウ素キャリアの開発 化学工業 67(11),45-52 (2016).
3. K Narise, K Okuda, Y Enomoto, T Hirayama, H Nagasawa, Optimization of biguanide derivatives as selective antitumor agents blocking adaptive stress responses in the tumor microenvironment. *Drug Des. Devel. Ther.*, 2014(8),701-717(2014).
4. T Hirayama, K Okuda and H Nagasawa, A Highly Selective Turn-on Fluorescent Probe for Detection of Iron(II) to Visualize Labile Iron in Living Cells, *Chem. Sci.*, 4,1250-1256(2013).

共同研究希望分野

- (1) がん微小環境を標的とする創薬、血管新生阻害剤、放射線増感剤、中性子捕捉療法ホウ素キャリア、光線力学療法増感剤等の開発。
- (2) 機能性二価鉄蛍光プローブの開発、鉄代謝を標的とする創薬スクリーニング。がん微小環境（低酸素、酸化ストレス）を標的とするバイオプローブ開発。

研究主題：

薬剤疫学的手法を用いた臨床薬学研究

教授 寺町 ひとみ Hitomi Teramachi



研究のキーワード

医薬品の適正使用、医療コミュニケーション、ビッグデータ、医療経済

一言アピール

寺町教授は、病院時代、研究や臨床業務で生じた問題点を、とことん突き止めようとする気概の持ち主でした。その後、大学教員となられてからも「薬剤疫学的手法を用いた臨床薬学研究」をメインテーマとし、研究並びに臨床系教員の業務に没頭され、多くの社会人博士を誕生させ医療現場にも多大な貢献をされております。私が最も尊敬する女性研究者であります。

横浜薬科大学臨床薬剤学研究室/実務実習センター教授 重山昌人



所属：岐阜薬科大学 病院薬学研究室

役職：教授

E-mail：teramachih@gifu-pu.ac.jp

専門分野：医療薬学

経歴

- 1980年 3月 金沢大学 薬学部薬学科 卒業
- 1980年 4月 JA岐阜厚生連中濃病院 薬剤部
- 2003年 3月 金沢大学大学院 自然科学研究科 博士後期課程 生命科学専攻 修了
- 2005年 4月 岐阜薬科大学 病院薬学研究室 講師
- 2006年10月 岐阜薬科大学 病院薬学研究室 助教授
- 2007年 4月 岐阜薬科大学 病院薬学研究室 准教授
- 2013年10月 岐阜薬科大学 病院薬学研究室 教授
- 2014年 4月 岐阜薬科大学附属薬局長兼任

研究の概要

病院および保険薬局における実務経験を生かして、医療現場に真に貢献できる問題解決能力のある臨床薬剤師の育成、そして臨床現場での薬剤師実務を基盤とした教育研究と医療薬学研究を実施しています。

教育研究として、幅広い薬学的専門知識、臨床コミュニケーション能力、問題解決能力などを兼ねそなえた薬剤師の教育を中心に、教育方略および教育評価法に関する研究を行っています。また、**医療コミュニケーションに関する教材および測定スキル尺度を開発するとともに、その評価方法の確立に関する研究**も行っています。さらに、国民一人ひとりが「医薬品を正しく使う」ことができるようになること、つまりセルフメディケーション推進を目的として、中学校保健体育科の授業プログラムをはじめとした、児童生徒、保護者、地域住民を対象とした**継続的な教育プログラム「医薬品の正しい使い方」プロジェクトの構築に関する研究を進めています。**

医療薬学研究として、医薬品適正使用のために、大規模医療情報データベースの解析や臨床現場との連携により臨床的な問題点の抽出およびその解明を行うとともに、新たなエビデンスの確立を目指しています。具体的には、「**薬物治療を受ける患者における生活の質（QOL）や副作用に関する臨床薬学研究**」、「**薬剤師によるファーマシューティカルケアに対する医療経済学的評価**」、「**薬剤疫学的手法による医療データの解析と臨床への活用**」等の研究を進めています。病院薬学研究室に配属された学部学生達、社会人の研究生および博士課程の学生、客員共同研究員の方々と一緒に研究しています。



代表論文

1. Teramachi H., Tachi T., Saito K., Esaki H., Kato M., Usui K., Noguchi Y., Questionnaire Survey of Implementation Status of "Education for Medicines" at High Schools in Gifu, Jpn. J. Pharm. Health Care Sci., 42, 193-201 (2016).
2. Tachi T., Teramachi H., Tanaka K., Asano S., Osawa T., Kawashima A., Hori A., Yasuda M., Mizui T., Nakada T., Noguchi Y., Tsuchiya T., Goto C., The Impact of Side Effects from Outpatient Chemotherapy on Presenteeism in Breast Cancer Patients: A Prospective Analysis, SpringerPlus, 5:327, doi:10.1186/s40064-016-1979-x (2016).
3. Taguchi M., Shigeyama M., Ito N., Ogawa N., Takahashi C., Murata M., Hanioka N., Yamamoto H., Teramachi H., Preparation and Evaluation of modified Mohs paste without Starch, YAKUGAKU ZASSHI, in press.
4. Noguchi Y., Esaki H., Asano S., Yokoi T., Usui K., Kato M., Saito K., Tachi T., Teramachi H., Analysis of Effects of the Diuretics on Levels of Blood Potassium and Blood Sodium with Angiotensin Receptor Blockers and Thiazide Diuretics Combination Therapy: Data Mining of the Japanese Adverse Drug Event Report Database, JADER, Jpn. J. Pharm. Health Care Sci., 41, 488-496 (2015).
5. Teramachi H., Komada N., Tanizawa K., Kuzuya Y., Tsuchiya T., Development of skill scale for communication skill measurement of pharmacist. Yakugaku Zasshi, 131, 587-595 (2011).

共同研究希望分野

- (1) レセプトデータを用いた医療経済分析
- (2) 薬剤師の介入による経済効果に関する研究
- (3) コミュニケーションスキル等の尺度を活用した研究
- (4) 児童・生徒・地域住民を対象にした「くすり教育」に関する研究



研究主題：

地域医療における薬剤師の役割 薬学教育

講師 **伊野 陽子** Yoko INO



研究のキーワード

地域医療、薬学教育、医薬品適正使用、他職種連携

所属：岐阜薬科大学 薬局薬学研究室
役職：講師
E-mail：ino@gifu-pu.ac.jp
専門分野：臨床薬学

一言アピール

米国の薬学部にて臨床薬学を学び、日本において病院薬剤師、薬局薬剤師の経験があります。現在は岐阜薬科大学附属薬局にて薬局薬剤師の業務も行ってまいります。地域における薬剤師の役割、薬学教育において臨床現場との橋渡しとなるような研究が行えたらと考えております。

経歴

1996年3月
岐阜薬科大学 薬学部 卒業（学士）
2004年8月
フロリダ大学 薬学部 修了（Pharm.D.）
2005年4月
昭和大学 横浜市北部病院 薬局
2015年4月
岐阜薬科大学 実践薬学大講座 薬局薬学研究室 講師
岐阜薬科大学附属薬局

研究の概要

かかりつけ薬局・薬剤師のための研修会の実施とその評価についての研究を行っています。
高齢化社会へ向けて地域における薬剤師に求められる役割が変化してきています。
この変化に対応し、かかりつけ薬局・薬剤師となるために必要なスキル・知識を身に着けるための研修会を目指して、リカレント講座を岐阜薬科大学附属薬局にて開催しました。
その結果を評価し、今後の業務へ生かしていきたいと考えております。



共同研究希望分野

- (1) 他職種連携による地域医療に関する研究
- (2) 他職種連携による薬学教育に関する研究



研究主題：

薬局薬剤師による介入の内容とその効果

助教 堺 千紘 Chihiro SAKAI



研究のキーワード

医療薬学、健康教育学

所属：岐阜薬科大学 薬局薬学研究室

役職：助教

E-mail : sakaic@gifu-pu.ac.jp

専門分野：医療薬学

一言アピール

私は、薬学部を卒業後、健康教育学や行動科学を学びたいと考え教育系大学院に進学いたしました。

大学院時代は、ライフスキル教育を専門とする指導教官の下で、児童生徒を対象とした医薬品の正しい使い方に関する教育の在り方について研究しておりました。

現在は、岐阜薬科大学附属薬局において、薬局薬剤師としての視点から、薬局薬剤師による介入の内容とその効果に関する研究に取り組んでいます。

経歴

2009年3月

徳島文理大学 香川薬学部 創薬学科 卒業

2014年3月

神戸大学 大学院 人間発達環境学研究科 心身発達専攻

博士課程後期課程 修了

2014年7月

岐阜薬科大学 実践薬学大講座 薬局薬学研究室 助教

研究の概要

(1)保険薬局におけるプレアボイド報告の分析

近年、薬剤師によるプレアボイド実践の重要性が広く認識されつつある中で、プレアボイド事例を共有することは、薬物治療の質と安全性の向上のために有用であると考えられます。本研究では、薬局薬剤師によるプレアボイド実践の内容を明らかにするために、2015年5月から2016年3月の間に岐阜薬科大学附属薬局において収集されたプレアボイド報告を分類、分析しました。

(2)うっかりドーピング防止における製薬企業の取り組みの実態に関する調査研究

プロのアスリートが参加する競技会のみならず市民アスリートが参加する競技会においてもドーピング検査が実施されており、日本におけるドーピング違反事例の多くは、医薬品の成分が禁止物質であることを知らずに服薬してしまい制裁を受けてしまう、いわゆる「うっかりドーピング」であるということが問題とされています。本研究では、製薬企業がうっかりドーピングを防止するために行っている活動の現状を明らかにすることを目的として、製薬企業を対象に質問紙調査を実施しました。

(3)中・高校生の医薬品使用にかかわる行動と態度の実態とその関連要因

教育によって青少年の健康的な行動（本研究では適切な医薬品使用にかかわる行動）を促進するためには、行動科学に基づいて教育方法を検討することが必要であると考えられます。本研究では、中・高校生を対象に、医薬品使用にかかわる行動や態度の実態とそれらに関連すると考えられた要因について質問紙調査を行い、その関連性を分析するとともに、より効果的な医薬品教育の指導内容、指導法について検討しました。

代表論文

- ・堺千紘, 川畑徹朗, 宋昇勲, 菱田一哉, 李美錦, 辻本悟史, 中村晴信, 今出友紀子：中学生の医薬品使用行動の実態とその関連要因—予備的質問紙調査の結果より—。学校保健研究 54：227-239, 2012
- ・堺千紘, 川畑徹朗, 李美錦, 菱田一哉, 宋昇勲, 今出友紀子：中・高校生の医薬品使用にかかわる行動および態度の実態。学校保健研究 55：295-307, 2013
- ・堺千紘, 川畑徹朗, 菱田一哉, 李美錦, 宋昇勲, 今出友紀子：中・高校生の医薬品使用行動にかかわる要因。学校保健研究 56：11-20, 2014

共同研究希望分野

- (1) 薬局薬剤師の業務に関する評価
- (2) 児童生徒を対象とした健康教育



岐阜女子大学





研究主題：

家庭科教育と家族・女性の生き方について

教授 **三輪 聖子** Satoko MIWA



研究のキーワード

家庭科教育、家族、男女共同参画、ジェンダー、女性の就労

一言アピール

平成27年度の連携型共同研究に岐阜大学の大藪千穂先生の共同研究者として参加させていただきました。課題は「岐阜の大学生と企業における男女共同参画に対する意識調査」に取り組みました。また十六銀行総合研究所の研究員の方たちとも共同研究を進めることができ大変勉強になりました。本調査研究から意識改革は進んでいるものの、いまだ日本社会は男社会であることが浮き彫りにされたと感じました。人口減少や少子高齢社会がますます進むなかで、学校教育を通して自らの能力を発揮することができる社会を構築する能力を身につける必要があると考えます。家庭科教育や消費者教育は、その役割の一端を担うことができると考え、今後もそのような研究を続けたいと思います。

所属：岐阜女子大学 家政学部 生活科学科生活科学専攻
役職：教授
E-mail：miwa@gijodai.ac.jp
専門分野：家庭科教育学 家族関係学

経歴

1981年3月
岐阜女子大学家政学部家政学科家政学専攻卒業
1984年3月
愛知教育大学大学院教育学研究科修了
1985年4月
岐阜女子大学助手
2004年4月
岐阜女子大学教授

研究の概要

【女性の生き方】

現代女性の生活は極めて大きな変化を遂げており、ジェンダーからくる性差別や役割性別分担など女性の社会的地位をめぐる問題は多い。そこでこれまで農山漁村に生活する女性の生き方に焦点を当て、現代から過去をさかのぼり女性の生活がどのように変動し、その要因がどこにあるのかを探ってきた。例えば、海女を生業とする女性たちは、労働力とそこから得られた経済力により、けして地位は低いものではなかったことを実証した。

【家庭科教育】

家庭科教育では、少子化が進行している状況を受けて、保育領域の内容が重要視されるようになってきた。平成20年度の学習指導要領改訂に伴い、中学校「技術・家庭」家庭分野における保育領域では、保育体験として保育実習を実施することが必修となった。生徒が保育実習の事前学習として学べる教材は少ないため「子どもの心の発達」「子どもの体の発達」「遊びと児童福祉文化財」「子どもの食生活」「子どもの人間関係」「家庭内における事故」などの内容について10分程度の画像や動画の教材を制作した。実際に授業で活用してもらい成果を上げることができた。

【家族関係】

家族関係では親子関係を中心に子育て支援に関する実践研究を実施した。子育て支援「ママパパアゴラ」を立ち上げ、ベビーマッサージを通じた親子の触れ合い活動や子どもの離乳食やおやつ作りの支援を通して、親子の関係性を明らかにした。

【結婚に関する調査】

山県市は、30～40歳男性の未婚率が全国平均より高く、合計特殊出生率も岐阜県内では低い状況にある。また、年々人口が減少しており、何とかそれを食い止める必要があると考え、平成27年度から結婚支援事業の活動を実施している。そこで平成28年度に山県市から依頼を受け、「山県市における結婚に関する調査」を実施した。調査対象は、山県市に住む子世代(50歳未満)500名と親世代(60歳以上)500名の合計1000名を無作為抽出により選出した。結果は、結婚したいという希望を持っている男女は多くいたが、相手とめぐり会う機会はほとんどなく、そのため活動もしていないと回答した人たちが、未婚者で8割ちかく存在していることが明らかになった。そこでそのような人に、出会いの機会を増やすために、婚活支援事業をより進めていくこととした。

代表論文

- ・山本伸晴・白幡久美子編著『改訂 保育士をめざす人の家庭支援』第9章 みらい 2017
- ・三輪聖子、石川麻希子「家庭科教育の保育領域における視聴覚教材の制作—子どもの食生活—」岐阜女子大学紀要 第45号 P.91～96 2016.1
- ・三輪聖子、木澤光子「子育て支援「ママパパアゴラ」の取り組み—ベビーマッサージとらくちん子ども食の参加者の意識」岐阜女子大学紀要 第43号 P.99～103 2014.3

共同研究希望分野

家庭科教育 家族関係 女性の生き方

研究主題：

ライフステージにおける働き方について

教授 **藤木 節子** Fujiki Setsuko



研究のキーワード

人の一生、キャリア、生活デザイン、ものづくり

一言アピール

昭和58年岐阜県立岐阜三田高等学校創立。27歳で着任。岐阜アパレル業界からの熱い要望により、全国的にも珍しい服飾科4クラス新設。ファッション産業を将来担う重要な役割。卒業生はデザイナー、パタンナーとして活躍。ファッション科に改編され、5年間主任を経験し、平成14年度までの20年間勤務。「継続は力なり」「好きこそものの上手なれ」コンテスト指導など少々自信あり。

平成15年度から3年間県教委、教頭5年、校長5年の間、岐阜県の実家庭科教育の充実・発展を願い定年を迎えた。

平成28年度岐阜女子大学の学生との出会い、授業が楽しい日々がスタートしました。

所属：岐阜女子大学 家政学部 生活科学科生活科学専攻
役職：教授

E-mail : fujiko@gijodai.ac.jp

専門分野：家庭科教育法 洋服造形（被服構成学）

経歴

昭和53年3月

椋山女学園大学 家政学部 被服学科 修了 学士

昭和53年4月 岐阜県立高等学校 家庭科教諭

平成15年4月 県教育委員会 学校政策課 課長補佐

平成18年4月 県立関有知・揖斐・海津明誠高校 教頭

平成23年4月 県立山県・岐阜城北高校 校長

平成28年4月

岐阜女子大学 家政学部 生活科学科 生活科学専攻 教授

研究の概要

大学では、「家庭科教育の研究」：家庭科教育を通じて 人間形成を図るには（キャリア教育）と「洋服造形の研究」（被服構成学）：洋服造形に関する確かな知識・技術力の定着の分野で研究をしています。

現行の学習指導要領では「生きる力」を育むことを理念としており、具現化するためには「生活者として自立し共に生きる」とことや「よりよく生活を創る」能力や実践的な態度の育成が家庭科教育の使命となっています。物質的に豊かな社会になり、家事労働の社会化が進み、若者の生活体験が乏しくなっている状況の中、ものづくりを通して確かな技術を身に付けさせる教育はますます重要です。育成すべき資質・能力の柱「知識・技術」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性等」広く豊かな人間性を育むためにも、意欲喚起を図りたいと考えています。

* 洋服造形の様子、はじめて製作したブラウスを着装した学生 *



代表論文

- ・職業に関する教科・教育等21世紀を展望した魅力ある家庭科教育の在り方
- ・アパレルCADシステムを活用した効果的な指導法：教員研究助成

共同研究希望分野

若者の自立支援：自立を支える家庭科教育、結婚・出産と人生、生活を豊かにする力 等



研究主題：

地域とともにある学校づくりの 実質化と地域人材育成

准教授 **安井 智恵** Tomoe YASUI



所属：岐阜女子大学 家政学部

役職：准教授

E-mail：yasui@gijodai.ac.jp

専門分野：教育学・学校経営学・教育行政学・キャリア教育

研究のキーワード

学校経営学、学校と家庭・地域の連携、コミュニティ・スクール、
キャリア教育

一言アピール

主な研究領域は、学校経営学、教育行政学、キャリア教育。

学校経営を中心に、学校と家庭・地域の連携に関する研究、特に、近年増加しているコミュニティ・スクールの事例分析を通して、新しい学校と地域の協働の在り方を検討しています。

また、保育所・幼稚園と小学校の接続に関する研究、食育に関する研究、子育て支援に関する研究、女性教員のキャリア形成の研究を行っています。

経歴

2005年3月

筑波大学 大学院 教育研究科 修了（修士（教育学））

2006年4月

岐阜女子大学 文化創造学部 准教授

2007年12月

岐阜女子大学 大学院 文化創造学研究科 准教授

2013年4月

岐阜女子大学 家政学部 准教授

研究の概要

「地域とともにある学校づくりの実質化と地域人材育成に関する調査研究」

（平成28年度文部科学省科学研究補助金基盤研究（C）研究代表者）

地域とともにある学校づくりを実質化し、地方創生の時代に学校が、「地域人材育成」という新たな役割を果たしていくためには、従来の学校観からの脱却と転換が必要である。本研究では、地域とともにある学校づくりが進展する段階を、①学校支援・地域活用型、②学校支援・地域参加型、③地域創造型の3つに類型化し、上記のような学校・地域の連携・協働に基づき地域人材形成に取り組む学校を「地域創造型学校」と規定した。「地域創造型学校」の学校・地域の連携・協働のしくみの構築過程をスクール・ヒストリーとして分析し、どのような過程を経て「地域創造型学校」に発展・転換していったかの変容過程を明らかにし、そこから地域とともにある学校づくりへの示唆を得ることを目的に研究を進めている。

「持続可能な地域づくりに向けた学校内外における協働体制の構築過程に関する調査研究」

（平成28年度文部科学省科学研究補助金基盤研究（C）研究分担者（研究代表者：宮前耕史））

本研究の目的は、持続可能な地域づくりに向けた教師の実践の成立基盤としての学校内外における協働体制の構築過程を明らかにすることにある。「へき地」農山漁村からの人口流出と過疎・高齢化が全国に先駆けて進む「課題先進地」北海道東部地域の教員養成課程の現場で見えてきたことは、これからの地域社会に求められるのは「地域創造型教師」であるということであった。同時に教師が持続可能な地域づくりに向けた教育実践を行っていくために、学校の内外において、その実現に向けた協働体制が構築されている必要があるということも明らかとなってきた。そこで、本研究では持続可能な地域づくりに学校・教師が中心的な役割を果たしている先行先進事例に関する調査研究を行って、上記課題に関する実証的なデータの収集と分析を行っている。

平成28年度山県市結婚支援事業「山県市結婚に係る調査研究事業」受託研究

（共同研究者：三輪聖子）

2016年8月、山県市在住の成人男女に結婚に関する質問紙調査を実施した。

代表論文

- ・「コミュニティ・スクールを核とした地域創造の可能性—子ども・大人・地域をつなぐ岐阜市のコミュニティ・スクールの展開—」地域文化研究 第34号、2017年3月
- ・「地域とともにある学校づくりの実質化と保護者・地域住民の参画意識—G小学校コミュニティ・スクールにおける保護者・地域住民の意識調査から—」日本学習社会学会第13回大会発表要旨集、2016年9月、pp. 75-76
- ・「学校統廃合の円滑な実施に対するコミュニティ・スクール制度導入の成果—伝統校統合の事例から—」岐阜女子大学紀要 第45号、2016年1月、pp.97-108
- ・「東京都足立区における学校選択制の事例研究—足立区教育委員会及び学校関係者へのインタビュー調査を通して—」岐阜女子大学紀要 第41号、2012年3月、pp.83-96
- ・「教育関連企業の学校市場参入戦略—学校市場参入に関する企業調査②—」学校の民営化8、教育開発研究所、教職研修 No.444、2009年8月、pp.56-60

共同研究希望分野

（1）学校・家庭・地域の連携と持続可能な地域づくり（2）保育所・幼稚園と小学校の接続（3）キャリア教育と地域人材育成、等

研究主題：

和布・和柄を用いた 家庭科教材の提案

特任准教授 **児玉 愛子** Aiko Kodama

研究のキーワード

被服構成、伝統衣装、和服

所属：岐阜女子大学 生活科学科 生活科学専攻
 役職：特任准教授
 E-mail：kodama@gijodai.ac.jp
 専門分野：被服構成（和服造形）

一言アピール

被服構成の中でも和服（伝統衣装を含）の変遷と構成、和服の製作と着装が専門分野である。

経歴

S51年3月
 岐阜女子大学 家政学部 家政学科 修了
 S51年4月～H26年3月
 岐阜県教職員（高等学校家庭）勤務
 H26年4月
 岐阜女子大学 家政学部 生活科学専攻 講師
 H27年4月
 岐阜女子大学 家政学部 生活科学専攻 特任准教授

研究の概要



和服は日本の民族衣装である。私たちの先人が長い年月をかけて日本の気候風土に適し、日本人の体形に合った和服を考え、織る人、染める人、仕立てる人の愛の形として現代の着物に完成してきた。日本人を最も美しく装ってくれるのが着物である。しかし、残念ながら現在の日本国内ではお宮参り、七五三、入学式、卒業式、成人式、結婚式、葬儀等人生の節目や儀式のときには着用されるが、日常生活での着用は少なく残念である。より多くの人が和服に親しみ、愛着を持って着てもらうためには、小さいころから和服に触れる機会を増やすことが近道と考える。

そのためには、家庭科の授業の中で日本の伝統文様や伝統色、伝統工芸を扱い、和布・和柄を取り入れた授業実践が望ましいと考える。そして、小学生から小物やインテリア作品の製作を通して、和布に興味や親しみを持たせたい。中学校・高等学校においては浴衣の製作や着装を通して、日本の伝統文化を見直し、後世に伝えていきたいという意識を持たせたい。

代表論文

- ・日本の伝統衣装－「花嫁衣裳（打掛）」の製作－
- ・日本の伝統衣装－「十二単」の製作－
- ・山県市との伝統産業コラボレーション－伊自良大実柿の柿渋を用いた商品開発－

共同研究希望分野

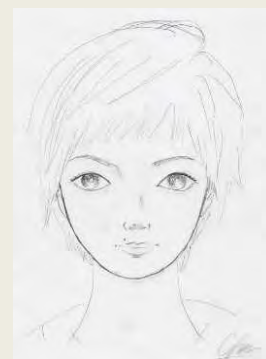
- ・和布・和柄を用いた家庭科教材の提案



研究主題：

家庭科の被服実技向上のための活動と指導

講師 齋藤 益美 Masumi SAITO



研究のキーワード

被服構成 被服実習 家庭科教育 環境 ユニバーサルファッション

一言アピール

衣服は、プラスチック製品などと同様に、機械が形成を行い製品化されていると考えている学生が増えていることに戸惑いを感じる。巾着やポーチ、ネクタイなどの繊維製品が100均で販売されていることを考えると製品化が容易であると判断されてしまうのも理解できなくはない。しかし、被服実習の基礎として巾着やポーチを製作する機会を持った学生は、その作業の困難に直面し初めて“もの”の製作過程を知り、“もの”の大切さを実感する。

目の前に存在する“もの”がすべて複雑で困難な製作過程を経て存在することに気が付く。これは人にとって必要な経験だといえる。

所属：岐阜女子大学 家政学部 生活科学科 生活科学専攻
役職：講師

E-mail：masumi@gijodai.ac.jp

専門分野：被服構成学 服飾文化 被服構成実習

経歴

岐阜女子大学 家政学部 家政学科 家政学専攻 卒業

研究の概要

家庭科教員をめざす学生が家庭科の幅広い知識と技術を身につけ、環境に配慮した豊かな生活をプロデュースできるようになるための機会として、「ECO+ものづくりプロジェクト」の活動を行っている。生活科学専攻の全学生によって組織されており運営委員とグループリーダーが中心となり、縦割りのグループ活動を中心に活動を行っている。

1年間の活動内容は下記のようなものである。

- ・新入生の技術指導（グループの2・3年生が1年生に基礎作品の製作指導を行う）
 - ・模擬店・クラフト展への出店（グループで商品を検討・開発・製作・販売し、流通・消費・経済などのつながりを知る）
 - ・展示（テーマを持って作品製作を行い展示発表を行う）
 - ・ワークショップ（ものづくりを子どもたち、お母さん、地域の人々に楽しく体験してもらう機会をつくる）
 - ・見学・研修（衣生活に関わる施設や企業の見学・研修）
- この活動を通して、学生同士、学生と子どもたち、あらゆる年代の人と関わり、情報を共有し社会とつながり貢献できる機会を持つ。

家庭科の教員としての知識・技術・資質の向上につながっているのか、実践的な活動が学生にどのような変化をもたらすのか、より効果的な活動内容はどのようなものかなどを考察する。



代表論文

- ・「ECO+ものづくりプロジェクト」の実施報告 ―学生の技術と資質の向上をめざして― 岐阜女子大学紀要 第45号, 2016.1
- ・「画像解析による編地模様の視覚的特徴と美しさの評価」 岐阜女子大学紀要 第42号, 平成25年3月, p63-67

共同研究希望分野

服飾デザイン 生活環境 被服構成

研究主題：

高齢期の住まいや暮らし方に関する研究

教授 **大崎 友記子** Yukiko OSAKI



研究のキーワード

高齢者、住まい、リフォーム、空き家、住教育

一言アピール

平成27年より、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」に採択された「生きづらさ学」の構築に向けた領域横断型実践研究を、小山真紀(岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授)、船越高樹(岐阜大学 障害学生支援室 特任助教)、相原征代(岐阜大学 男女平等参画推進室 特任助教)の3名の先生方と取り組んでおり、高齢期における住まいかたに着目した「生きづらさ」研究を担当している。

所属：岐阜女子大学 家政学部 生活科学科 住居学専攻
役職：教授

E-mail : osaki@gijodai.ac.jp

専門分野：建築計画、住環境計画

経歴

1988年3月

岐阜女子大学 家政学部 住居学科 卒業

1988年4月より建築設計事務所勤務後、2000年11月より一級建築士事務所 PLANNET.O 主宰

2004年4月

岐阜女子大学 家政学部 住居学科 講師

2016年10月

岐阜女子大学 家政学部 生活科学科 住居学専攻 教授

研究の概要

住む人がどんな暮らしをしたいのか？家族のあり方・暮らし方に合わせた住まいづくりでは、家族ごとに住みやすい住宅が異なります。又将来の家族構成、ライフスタイルの変化にも柔軟に対応できる住まいづくりに焦点を当て、少子高齢化、未婚化の社会問題を背景に、主に高齢者や単身者の住居、地域における人々の生活空間・環境を考えながら、永く住み続けられる住宅、安心して暮らすことができる住まい環境づくりの研究をしています。

住居学専攻では、2004年から特別プロジェクト実習として、実務につながる建設実践活動を行っています。木造平屋建の実習棟に始まり、現在の災害時浴室棟の建設まで、9つのプロジェクトを展開。2007年に大学から依頼された学生食堂のリニューアル工事をきっかけとして、大学内の老朽化した施設リフォームも継続的に手掛けています。



災害時浴室棟の建設工事の様子



学生寮のリフォーム工事の様子

論文・資料等

「高齢期における住まい方に着目した生きづらさ」 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（連携型）平成28年度 連携型共同研究助成研究成果報告書「生きづらさ学」の構築に向けた領域横断型実践研究の試み（平成28年3月）pp143-157

ものづくりを楽しくー住居学専攻学生、実践の試みー『岐阜女子大学紀要第43号』（平成26年3月）p29-52

居住環境から見た在宅要支援高齢者の居室の用途変更に関する研究

（財）名古屋市高齢者療養サービス事業団平成22年度公益事業助成・研究成果物（平成23年3月）

共同研究希望分野

(1) 高齢者等の住環境整備



研究主題：

生活習慣病と食事療法

教授 **水野 幸子** Sachiko Mizuno



研究のキーワード

生活習慣病・食で治す

一言アピール

高齢者は、マイナスのお荷物が増える。生活習慣を見直す。食事を見直す。自分を制したり、良いといわれる運動も加えたり、しかし、思いの外、忍耐が必要である。にも係らず成果が出ない。もっと楽にもっと楽しく、食べているうちに、どんどん病気が良くなっていくことは出来ないか。はじめてに食あり、健康寿命の延伸が願い。

所属：岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科
役職：教授
E-mail：mizunos@gijodai.ac.jp
専門分野：実践栄養学

経歴

2006年3月
岐阜女子大学 大学院 生活科学研究科 生活科学専攻 修了
2007年4月
岐阜女子大学 家政学部健康栄養学科 教授
2008年4月
岐阜女子大学 大学院 生活科学生活研究科 教授
2010年4月
岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科 学科長

研究の概要



国民病とまで言われる糖尿病は高血圧症や脳梗塞、糖尿性腎症など枝葉がついていく。減塩、低カロリーの食事、特に腎臓の守護を優先に行なわれる、低タンパクの治療食は、困難と忍耐の年月が、要求される。

低タンパク米が、必要になったとき、その付加価値ある食品は、毎日の食事に対して高価である。糖尿病では、甘いものに目のない方には、ケーキやお饅頭、おはぎは、禁止食になる。麺食も辛い。

日本人に生まれ、伝統食文化や郷土料理から隔離される食事療法は、家族にも過酷だ。今、高齢者ならば、必ず認知症の到来に、恐れを抱いているであろう。しかし、肥満を防ぎ、日常運動を行い、禁煙した人の看護の重症度は低い、介護期間が短縮されると聞けば、じっとしてはいられない。

食について、何時から学べば良かったのだろうか、これから何を解決すれば、健康で生きられるのか。老いも若きも食はひとつ、豊かな食生活を営みたい。

減塩できるかみそ汁、糖尿病でも安心ケーキ、家庭でできる低タンパク米の作製など、身近な問題の解決に臨みたい。



代表論文

おいしい簡単やわらか食（2012）単著

研究主題：

サギソウの保全に関する研究

教授 **太田 和子** Kazuko Ota



研究のキーワード

サギソウ、絶滅危惧植物、湿地

一言アピール

岐阜女子大学のシンボルであるサギソウの復元の研究に取り組んでいます。大学構内に湿地があり、実験フィールドとして利用できます。

本学湿地には、カキツバタ、ミクリ、オオミズゴケなどの絶滅危惧植物やいろいろなトンボや絶滅危惧動物のホトケドジョウなどもあります。

絶滅危惧生物の保護や環境教育等に関心のある方は、一緒に研究をやってみませんか。

所属：岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科

役職：教授

E-mail : oota@gijodai.ac.jp

専門分野：環境保全 園芸学 植物生態学

経歴

1981年3月 千葉大学 園芸学部卒業

1983年3月 名古屋大学 大学院 農学研究科 博士前期課程 修了

1986年3月 同学大学院 博士後期課程 修了

1989年3月 農学博士取得

1989年4月 岐阜女子大学 助手

1991年4月 岐阜女子大学 講師

1998年4月 岐阜女子大学 助教授

2007年4月 岐阜女子大学 教授

研究の概要



岐阜女子大学の創立は1968年で、当時は大学建設予定地一帯にサギソウの自然群落があり、真っ白に花を咲かせていたそうである。サギソウは本学のシンボル花となっている。しかし、創立当初たくさんあったサギソウも、環境の変化や採集により、1980年代に絶滅してしまった。そこで、再びサギソウ群落を大学内に復元させることを目的に1999年より研究に着手した。

本学の構内には、元は棚田だった約2800m²の湿地がある。この湿地にサギソウ球根を植え付けて、生育に適する環境条件について検討を行った。1999～2000年は市販の球根や知人にいただいた球根を植え付け、冬に掘り出した。2001年からは、過去に大学近辺で自生していたサギソウを近所の園芸愛好家が維持・増殖していたものを寄贈いただき、湿地への植え戻しを始めた。



これまで、水位、光条件などの環境要因について検討し、実際の湿地での除草管理の検討などを行ってきた。湿地には2010年までにいろいろな実験のため、太郎丸産球根を合計で2449球植え付けてきた。また、実験室で無菌播種を行い、増殖したものを湿地に戻す研究も行ってきた。

最も個体数が多くなったのは、2010年で全植付け区の個体数を合計すると約3万5千個体となった。しかし、その後は増殖率が低下してきた。個体密度の増加や除草管理が行き届かなくなってきたことが原因ではないかと考えている。現在、効率的な除草管理について検討を進めている。

代表論文

1. サギソウの無菌播種による増殖Ⅲ－順化について－, 岐阜女子大学紀要 第44号, p39-43, 2015
2. サギソウの無菌播種による増殖Ⅱ－培地のスクロース濃度の影響－, 岐阜女子大学紀要 第42号, p77-80, 2013
3. サギソウの無菌播種による増殖Ⅰ－培地の検討－, 岐阜女子大学紀要 第41号, p11-15, 2012
4. サギソウ等湿地植物群落の保護・復元に関する研究（Ⅳ）－岐阜女子大学内湿地の土壌分析－, 岐阜女子大学紀要 第32号, p125-129, 2003

共同研究希望分野

遺伝子分析の分野、植物ウィルスの分野、生態学の分野 など



研究主題：

食事療法を楽しむ

教授 **藤田 昌子** Masako FUJITA



研究のキーワード

臨床栄養学，食事療法，栄養教育

所属：岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科
役職：教授
E-mail：masako@gijodai.ac.jp
専門分野：臨床栄養学

一言アピール

学部を卒業後、病院勤務を経て法改正により教育研究に転身。
病院勤務で感じた疑問や食事療法の困難さをそのまま研究テーマにしました。食事療法で困っている方に栄養教育するための基礎研究をしています。最期を迎えるまで、おいしく食べられること。これが一番の幸せと考えます。
ほかに自分を育ててくれた地域へ貢献するために、何ができるか模索中です。

経歴

2002年4月 岐阜女子大学 講師
2008年4月 同 准教授
2011年3月 岐阜女子大学 大学院 生活科学研究科 修了
2015年4月 岐阜女子大学 教授

研究の概要



アスパルテームを用いたシフォンケーキ

・糖質制限

病気になっても、健康な人と同じでおいしいものを食べたいという要望から、糖尿病に罹患しても安心して食べられるスイーツを作りました。しかし血糖値を上げにくくするためには人工甘味料は欠かせません。アスパルテームは人工甘味料特有の後味は気にならないが、加熱により甘味度は低下してしまいます。大量には摂取したくないことから、甘味低下を最小限に抑えるための調理の工夫を検討しています。

・カリウム制限

腎疾患の治療は、倦怠感に加え、厳しい食事制限が伴います。中でもカリウム制限は調理従事者の手間を増やし、食味も落ちます。そのため、QOL（quality of life）が低下してしまいます。QOLを維持するために簡単で、おいしいカリウム制限をするための調理の工夫を検討しています。

代表論文

- ・加熱によるアスパルテームの甘味変化の抑制
- ・水処理における馬鈴薯のカリウム含有量の変化

共同研究希望分野

- ・食事療法のための基礎研究（カリウム制限，食塩制限，脂質制限など）
- ・地域活性化のための特産品利用

研究主題：

ビタミンの栄養生理と食品の機能性に関する研究

講師 **伊佐 保香** Yasuka ISA



研究のキーワード

栄養学、ビタミンB₆、葉酸、栄養生理、食品機能

所属：岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科
役職：講師
E-mail：yisa@gijodai.ac.jp
専門分野：栄養学、ビタミン

一言アピール

主に実験動物を用いた代謝の測定を行っている。基礎研究が主であるが、食品素材の機能性の評価および商品への応用も検討している。

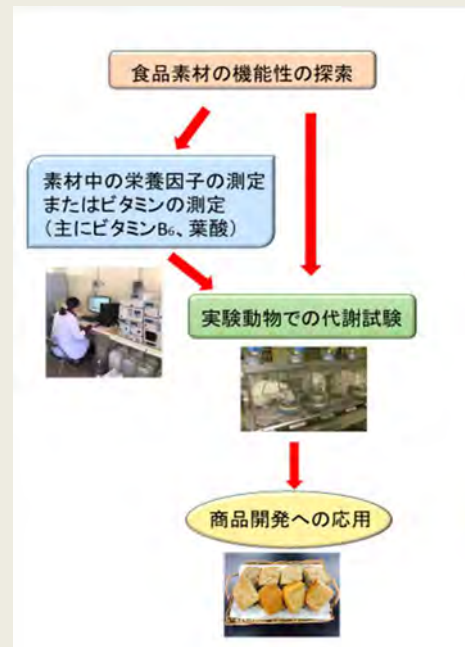
<保有手技>

- ◆ビタミンB₆、葉酸の測定（HPLC法、微生物定量法）
- ◆実験動物を用いた栄養代謝試験・食品機能性の評価試験

経歴

2006年9月
岐阜大学 大学院 連合農学研究科 博士課程 修了（農学博士）
2006年10月
中部大学 応用生物科学部 研究員
2007年4月
岐阜大学大学院 医学系研究科 研究員
2009年4月
岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科 助教
2013年4月
岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科 講師

研究の概要



<研究の概要>

1、ビタミンの研究

メチオニン代謝に関わるビタミンB₆の生理作用について研究。
現在は、タンパク質の種類の違い（動物性タンパク質、植物性タンパク質）によるビタミンB₆必要量を検討。

2、食品の機能性に関する研究

主に脂質代謝への影響、抗酸化作用への影響について研究。
現在は、
ダイコン粉末を用いて、脂質代謝への作用を検討。
ハチミツを用いて、調理加工における抗酸化作用への影響について検討。

<今後の展望>

- 食品の新たな機能を探索し、付加価値を高めた製品の開発
→高齢者に対するタンパク質摂取の向上、消化性の向上、代謝機能の向上
- 機能性を高めた食品素材の商品への応用
→食品素材の調理加工への影響を検討
→機能性素材の商品への応用
- 母乳のビタミン栄養に関する研究
→乳児に対し、母乳を介した栄養摂取の影響（特にビタミンB₆や葉酸、タンパク質）

代表論文

- ・粉末ダイコン葉摂取がラットの生理機能に及ぼす影響. 食文化研究 2, 1-6 (2015)
- ・産後1週目から8週目の母乳中葉酸濃度の経時的変化. 日本栄養・食糧学会誌 67, 27-31 (2014)
- ・分離大豆たん白質摂取時のビタミンB₆栄養状態の検討. 大豆たん白質研究 Vol.16, 127-132 (2013)
- ・Increase in S-adenosylhomocysteine content and its effect on the S-adenosylhomocysteine hydrolase activity under transient high plasma homocysteine levels in rats. J Nutr Sci Vitaminol, 52(6), 479-482 (2006)

共同研究希望分野

- (1) 食品の機能性に関する栄養生理面での研究（主に脂質代謝、糖代謝）
- (2) 栄養面での付加価値を高めた食品の開発
- (3) 母乳・乳児の栄養研究



研究主題：

食材の美味しさに関する研究

講師 **笠井 恵里** Eri KASAI



研究のキーワード

食材の調理特性、栄養

所属：岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科
役職：講師
E-mail：kasai@gijodai.ac.jp
専門分野：調理科学

一言アピール

- ◆ 食材には、それぞれ特有の味や色があります。その味や色を引き出し、より美味しくするための調理方法を探しています。また、鰹と昆布のうま味を合わせると、うま味が増強されるように、味の相互作用を利用して、より食材の味を活かした料理を提案し、健康（減塩）に繋げることができないか研究しています。

経歴

2008年3月 滋賀県立大学 環境科学博士
2008年4月 病院 栄養士
2008年6月 病院 管理栄養士
2010年4月 岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科 助手
2011年4月 同 助教
2015年4月 同 講師

研究の概要

- ◆ 岐阜大学のブランド野菜「仙寿菜」は、鮮やかな赤色を特徴とし、高温期によく生長し、栄養成分、食物繊維に富むこと、夏季の葉野菜としての利用が期待されます。しかし、葉の鮮やかな赤色は、熱に弱く、pHによってその発色が変化する特性を有しているため、利用の幅が限られています。そこで、この鮮やかな赤色の加工・調理時における変化やそれに関わる要因を明らかにし、仙寿菜の特徴を引き出すための加工・調理法を検討しています。
- ◆ 食材は、多様な色を持っています。この色は、食欲に影響を与えます。例えば、赤色やオレンジ色は、食欲増進につながり、茶色や青色は、食欲減退につながります。そこで、食材特有の色と味を活かした商品開発とその評価に取り組んでいます。
- ◆ 高血圧予防として、減塩、野菜・果物の積極的摂取（カリウム摂取量の増加）を推奨しています。しかし、急激な減塩、極度な減塩、食べきれないほどの野菜は、QOL(生活の質)の低下につながります。そこで、美味しく減塩するための方法、より効果的にカリウム摂取する方法を検討しています。



共同研究希望分野

- ・調理
- ・食材の特性、美味しさに関すること

研究主題：

子どもへの栄養教育

講師 **木村 具子** Tomoko Kimura

研究のキーワード

児童生徒、食に関する指導、調理技術、栄養教諭

所属：岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科
役職：講師
専門分野：栄養教育

一言アピール

子ども達への栄養教育に関することを探求し、小中学校の栄養教諭の先生方が現場で生かせるような研究をしていきたいと考えています。

経歴

平成7年3月
岐阜女子大学 家政学部 卒業

研究の概要



児童生徒に対する栄養教育の内容や方法について検討していきたいと考えています。また、それを指導する指導者の育成も大切だと考えています。

今年度は、調理技術の中でも特に包丁の扱い方について向上を目指すために、どのような場や指導方法で子どもたちに指導を行うとよいかについて取り組みました。子どもたちは調理して食べることには興味をもっていますが、実際に調理をする機会がないのが現状です。調理の技術の中でも包丁を使って食材を切るということがよりハードルを高くしていると考えられます。そこで、子どもに個別指導的方法で包丁の扱い方を指導する方法について検討を行いました。

また、食物アレルギーのお友達とも安全に食を楽しめるように児童が正しい知識を得るためにはどのような場と指導方法が適しているのかについても取り組みました。

共同研究希望分野

児童生徒への栄養教育（調理体験を含むもの、食に対する正しい知識を得るもの、教材研究など）



研究主題：

学童期から青年期の 食生活に関する研究

助教 **大場 君枝** Kimie OOBA



研究のキーワード

食生活、献立の栄養価、調理

"清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト"に感謝

結婚と同時に岐阜女子大学に勤務し始め、研究指導を受けながら、第3子育児休暇中に大学院を卒業した。育児と研究教育の両立について、家庭でも、職場でも周囲の人々に負担をかけることが多く、このまま働き続けることが良いことなのかと悩み続けた。しかし、入学した学生が大きく成長して卒業していく姿をみるのが嬉しく、また、家族や保育施設、周囲の先生方の支えがあり、今日まで継続することができた。さらに、この度のダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの支援プロジェクトにより、第4子育児休暇明けにも関わらず、研究補助員の方を派遣頂いたおかげで、共同研究をさせて頂けたことに感謝している。

所属：岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科
役職：助教
E-mail：ohba@gijodai.ac.jp
専門分野：食生活学

経歴

13年3月
岐阜女子大学 家政学部 家政学科 食物栄養学専攻 修了
13年4月
日清医療食品株式会社（委託給食会社）入社
15年6月
岐阜女子大学 家政学部 家政学科 管理栄養士専攻 助手
22年3月
岐阜女子大学 大学院 生活科学研究科 生活科学専攻 修了
24年4月
岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科 助教

研究の概要



小・中学校の義務教育では、給食が児童・学生の食生活の支えとなり、食育の媒体となっている。しかし、高校生や大学生になると給食はなくなり、自分が作る食事、店で購入する弁当など、食べるものを自分で選択することが多くなる。1日の栄養価が自分自身の選択した食事内容次第で決まる。また、高校生は大学生から始まる1人暮らしに向けて自分自身でよりよい食習慣を確立するための重要な時期である。高校生や大学生の時期は、成人期の準備期間であり、高校・大学時代の食習慣が成人になったときの食習慣にそのまま移行し、成人期に家族をもったときの家族の食生活にも影響すると考えられる。上記のことからも、高校・大学時代に親から自立した適切な食習慣を身につけることが、将来の自分自身の健康を支えとともに、次世代の子供の健康も支えることになる。しかし、現状は、管理栄養士を目指して入学する学生でも主食、主菜、副菜を揃えた食事の良さを知らず、偏った食生活をしている。そこで、岐阜女子大学健康栄養学科で開催している高校生朝ごはんコンテスト応募作品の栄養価に注目し、高校生や大学生の自主的な食生活改善を促すための基礎資料作成を継続している。実生活で即役立つ、実践しやすい提案をモットーとし、次世代を担う青年期の食生活改善に貢献できればと考える。

また、今回、岐阜大学柴田奈緒美先生にお声がけいただき、本年度は「学校給食におけるアレルギー対応食の多様化に向けた試み」について、共同研究をさせて頂くことができた。調理科学の面から柴田先生が、栄養の面から大場がコラボしてアレルギー対応食の代替食について研究をすすめることで、岐阜県内のアレルギー食対応について、除去食対応が少しでも代替食対応に変わり、アレルギー児が給食の時間を楽しく過ごせ、対応する調理員の方の負担も減るような提案ができるよう、学童期の食にも注目して研究を進めていきたい。

代表論文

大学生の食意識と調理技術向上を目指した教育内容の検討 共著
岐阜女子大学食文化研究 2014 第2号, 平成27年5月, p47-57 (共著者：長屋郁子・水田千尋)
高校生朝ごはんコンテストにみる地域食材を利用した献立の栄養的特徴 共著
岐阜女子大学紀要 第43号, 平成26年3月, p145-151 (共著者：水野幸子・村山香里)
新聞記事にみる食材管理システムの現状と課題－学校給食における生ゴミ処理方法－ 共著
岐阜女子大学紀要 第39号, 平成22年3月, p59-66 (共著者：小川宣子)

共同研究希望分野

調理や献立、料理の栄養価に関する研究

研究主題：

食品のおいしさに与える 要因の検討

助教 **清水 祐美** Hiromi Shimizu



研究のキーワード

脂質酸化、物性評価、食文化

所属：岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科
役職：助教
E-mail：hiromis@gijodai.ac.jp
専門分野：栄養学

一言アピール

食品のおいしさは、様々な要因が関わっており、食品によって異なります。おいしさの尺度は、食品の成分だけではなく、調理加工や保存による成分の変化や、物性、温度などが挙げられます。様々な要因によって食品のおいしさが向上したり、反対に低下したりします。食品のおいしさの向上につながる要因が明らかとなれば、QOLの向上につなげることができると考えています。食品ごとで異なるおいしさに関わる様々な要因を研究しています。

経歴

2008年4月 岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科 助手
2010年3月 岐阜女子大学 大学院生活科学研究科 修了
2013年4月 岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科 助教

研究の概要

1. 食肉の加工・保存が脂質酸化に与える影響

脂質は、加熱、保存、温度、金属イオンなどの様々な要因で脂質酸化が進行します。脂質酸化によって生じる酸化二次生成物は、食品の品質劣化につながります。また、毒性を有することから人体への影響も懸念されます。脂質酸化の進行を抑制できれば、食品の品質向上につながり、QOLの向上にもつながります。

家庭や加工食品として利用・応用しやすい食肉を使用して、調理加工や保存による脂質酸化の変化から有効な脂質酸化の抑制方法を検討しています。

2. 牛肉の物性がおいしさの評価に与える影響

食肉は、アミノ酸や脂肪酸などの成分がおいしさに関連しています。特に牛肉のアミノ酸組成の違いは、牛肉のおいしさに影響すると考えられています。また、岐阜県の特産物である飛騨牛や黒毛和牛について、ロース部分のアミノ酸を測定し、アミノ酸組成の違いを明らかにしてきました。

現在は、飛騨牛について、成分だけではなく物性に注目しています。物性と官能評価の結果から、牛肉のおいしさに与える要因を検討しています。

3. 食文化や食経験が味覚形成に与える影響

味の感じ方、好みは人それぞれです。食品の好き嫌いは、どのような要因で起こるのかを検討しています。

過去の食経験から好き嫌いを示すのか、地域特有の食文化が好き嫌いに影響するのかなど、食生活や食経験についてアンケート調査を行なっています。どのような要因が食品の好みに関連するのかを食生活や食経験から検討しています。

また、女子大学生に食事調査を行い、食生活にどのような特徴があり、どのような嗜好の特徴があるのかを調べています。



【嗜好型官能評価の様子】



【飛騨牛の物性測定】

代表論文

・清水祐美, 山内裕貴, 加藤邦人, 山本和彦, 小林由実, 小川宣子, 飛騨牛のたんぱく質評価, 岐阜女子大学地域文化研究 第26号, 平成21年3月, p44-50

共同研究希望分野

- ・脂質酸化に関する研究
- ・牛肉の物性評価



研究主題：

デジタルアーカイブの開発・利用 及び人材育成に関する研究

文化創造学部長 **三宅 茜巳** Akemi MIYAKE



研究のキーワード

デジタルアーカイブ 文化情報学 人材育成 企業

一言アピール



組織における人材の重要性についてはいさら言うまでもありませんが、私も自分の周りの人を大切にしたいと常々思っています。
私の周りの人とは、「自分と家族」「同僚・友人・知人とその家族」「現在の学生と未来の学生」「関係組織や地域の人々」等です。

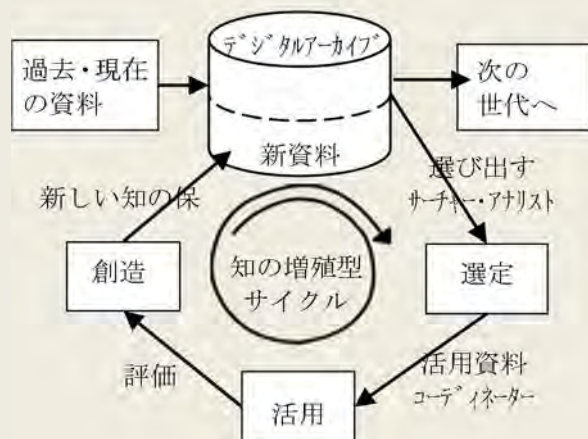
所属：岐阜女子大学 文化創造学部及び文化創造学研究科
役職：学部長 研究科長
E-mail amiyake@gijodai.ac.jp
専門分野：文化情報学

経歴

1980年3月
早稲田大学 第一文学部卒
1982年3月
早稲田大学 文学研究科 修士課程修了 文学修士
2007年4月
岐阜女子大学 文化創造学部 教授

上級デジタルアーキビスト

研究の概要



2000年頃から一部機関や人々が資料のデジタルアーカイブ化を進めてきましたが、2012年に出された提言「知のデジタルアーカイブー社会の知識インフラの拡充に向けてー」を受けて各方面でデジタルアーカイブの開発が広まりました。同時にデジタルアーカイブの開発に関する研究も進められてきました。しかし、デジタルアーカイブの利活用に関する研究はあまり進んでいませんでした。

近年デジタルアーカイブの利活用に関する研究の必要性が高まり、企業においてもデジタルアーカイブを活用という視点から見直さなければならないという主張がなされるようになってきました。

私達は、デジタルアーカイブの活用について、過去の資料を実践に活用する研究を進めています。また、実践で得られた成果をフィードバックして、既存のデジタルアーカイブに資料として追加することによりデジタルアーカイブの資料が増殖するプロセスを「知の増殖型サイクル」と呼び、左図のようにイメージ化を図っています。このサイクルを回すためには、資料活用の支援者として、活用支援者A：サーチャー、アナリスト、活用支援者B：コーディネータ等が必要であり、こうした人材の育成が課題です。

代表論文等

- 「岐阜女子大学デジタルアーカイブの「知の増殖型サイクル」機能の実践事例」（2016）デジタルアーカイブ研究所テクニカルレポート Vol2-1 pp.1-18
- 「岐阜女子大学のデジタルアーカイブの新しい課題」（2016）デジタルアーカイブ研究所年報2015 pp.81-90
- 「デジタルアーカイブ教育カリキュラムの見直しに関する考察～企業アーカイブの観点の導入～」（2014）デジタルアーカイブ研究誌 Vol.2-1 pp.17-24
- 『デジタルアーキビスト入門』（2014）共著 NPO日本アーカイブ協会
- 『デジタル・アーカイブ要覧』（2007）共著 教育評論社
- 『デジタル・アーキビスト概論』（2006）共著 日本文教出版

共同研究希望分野

企業資料・企業情報のアーカイブ化とその利用に関する研究

研究主題：

口承による歴史記録 ～オーラルヒストリーのデジタルアーカイブ～

准教授 谷 里佐 Risa TANI



研究のキーワード

文化情報、博物館、デジタルアーカイブ

所属：岐阜女子大学 文化創造学部
役職：准教授
専門分野：文化情報・博物館学

一言アピール

岐阜女子大学では、文化創造学部のアーカイブ専修に所属し、博物館学芸員資格の担当をしています。
博物館も、所蔵資料の整理や展示、広報活動等にひろくデジタルアーカイブを取り入れており、実物資料と同様に、デジタル資料の記録、保存、利用に関する知識と技術が必要とされています。研究主題の口承による歴史記録は、博物館にとっても重要な事項であると考えています。

経歴

平成18年3月
岐阜大学 大学院 教育学研究科 カリキュラム開発専攻 修了
平成18年4月
岐阜女子大学 文化創造学部 文化創造学専攻 講師
兼デジタルミュージアム学芸員
平成19年4月
岐阜女子大学 文化創造学部 文化創造学専攻 准教授
兼デジタルミュージアム学芸員

研究の概要

人の「語り」は、民話や言い伝え、証言など、さまざまなものがあり、その人物の思いや記憶、あるいは歴史的背景をも表すものであり、文字が用いられる以前からの情報伝達の手段でした。しかし、これまで、その記録内容に対しては、真正性や正確性に関する指摘も多くなされています。
その指摘の多くは、人の「語り」の口述筆記等、文字の記録に対するものであり、それらは、「語り」を音声や映像等で記録を行うデジタルアーカイブによって、払拭できる可能性があります。オーラルヒストリーのデジタルアーカイブもその一つです。

オーラルヒストリーとは、個人や組織の経験を聞き取りし、記録を作成して後世に伝えるものであり、その起源は紀元前にまでさかのぼるといわれています。

オーラルヒストリーのデジタルアーカイブを通して、資料としての保存や活用方法等を検討し、人の「語り」を歴史の記録としてどう残していくか、残すべきであるか研究しています。

これまでに、元文部事務次官・木田宏氏のオーラルヒストリーをはじめとして、白川郷和田家や白山文化、沖縄の戦中・戦後のオーラルヒストリー等のデジタルアーカイブに取り組みました。



代表論文

- ・ 数百年、数千年後の利用に配慮した索引語の検討～現在のデジタルアーカイブに付与された用語の意味をいかに伝えるか～、デジタルアーカイブ研究所年報2015, 単著, 2016
- ・ オーラルヒストリーのデジタルアーカイブ, デジタルアーカイブ研究誌 Vol.3 No.1, 共著, 2016
- ・ デジタルアーカイブ学修を取り入れた博物館実習カリキュラムの検討, 日本教育情報学会 第31年会論文集, 単著, 2015
- ・ 資料の長期・短期保管と利用の課題, デジタルアーカイブ研究誌 Vol.2 No.1, 単著, 2014
- ・ 利用目的に配慮したデジタルアーカイブの構成の課題, 岐阜女子大学文化情報研究 Vol.15-3, 単著, 2014
- ・ デジタルアーカイブの利用を支援するインターフェイスの課題, 日本教育情報学会 第29年会論文集, 共著, 2013

共同研究希望分野

- (1) オーラルヒストリーの記録と利用に関する研究



研究主題：

公共図書館の経営 図書館とデジタルアーカイブ

准教授 **石原 真理** Mari ISHIHARA



所属：岐阜女子大学 文化創造学部
役職：准教授 図書館副館長
E-mail：ishihara@gijodai.ac.jp
専門分野：図書館情報学

研究のキーワード

図書館経営, 図書館評価, デジタルアーカイブ, CIE図書館

一言アピール

これまで、公共図書館の経営に関する研究を行ってきましたが、現在、図書館のデジタルアーカイブにも興味を持っています。図書館のデジタルアーカイブは、数年前に予想されたよりも、設置する図書館数が増加していないようです。手間や費用がかかる割に活用方法やメリットなどが理解されていないからなのではないでしょうか。

現在、図書館のデジタルアーカイブがどのような状況なのか、今後どのように進むべきなのか、同じ関心を持つ方々と一緒に研究したいと思います。

経歴

1983年4月
神奈川県に司書として採用 神奈川県立図書館などに勤務
2009年3月
慶應義塾大学文学研究科図書館・情報学専攻後期博士課程単位取得退学
2010年4月～
青山学院女子短期大学、専修大学などで非常勤講師を務める
2016年3月
神奈川県を退職
2016年4月より現職

研究の概要

これまで、公共図書館経営に関する研究を行ってきました。特に、図書館評価について関心がありました。その他、図書館職員の研修や、都道府県立図書館の役割にも興味を持っています。図書館の現場が長かったので、その経験を生かした研究を行いたいと考えています。

現在進めたいと考えている研究のテーマは2つあります。

一つは、「図書館のデジタルアーカイブ」です。デジタルアーカイブは、様々な機関が、様々な方法で行っていますが、現在はまだ「研究」が十分進められていないような気がします。アーカイブ関係、博物館関係、図書館関係の研究が進められていますが、それぞれがばらばらに進められているように思います。私は、図書館のデジタルアーカイブの事例研究から始めたいと考えています。平成21年度の国立国会図書館の調査以来、悉皆的な調査がなされていないので、まずは実態調査が出来ればよいと考えています。

二つ目の研究テーマは、CIE図書館（SCAP CIE Information Center）です。GHQ/SCAPの民間情報教育局（CIE）により設置された施設ですが、公共的な情報基盤である図書館の戦後のサービス・モデルとなりました。CIE図書館について調査・分析し、戦後日本の公共図書館サービスに与えた影響を考察したいと考えています。特に、CIE図書館の所蔵資料の面からアプローチしようと考えており、CIE図書館が所蔵していた資料を現在も所蔵している図書館（神奈川県立図書館、東北大学附属図書館、新潟大学附属図書館など）の資料を調査・分析する予定です。

代表論文

- 石原真理. 公共図書館におけるレファレンス・サービスの質の評価. Library and Information Science, 2008, no.59, p.41-67.
石原真理. レファレンス・サービスの評価の枠組みとレファレンス・サービスの質の評価法. Library and Information Science, 2009, no.61, p.153-176.
石原真理. 横浜アメリカ文化センター所蔵資料と設置者の意図. 日本図書館情報学会誌, 2010, vol.56, no.1, p.17-33.
石原真理. 都道府県立図書館の目指すもの: 各図書館の運営方針等の分析を通して探る. 岐阜女子大学紀要, 2017, No.46.

共同研究希望分野

図書館のデジタルアーカイブ, CIE図書館, 図書館評価

研究主題：

デジタルアーカイブにおける 地域文化資料の提示と保管

講師 **加藤 真由美** KATOH Mayumi



研究のキーワード

デジタルアーカイブ、地域文化、提示、利用、保管

一言アピール

これまでに沖縄へ訪れた回数は15回以上。プライベートの訪問は一度もありません。全て資料収集やデータ整理等ビジネス。それでも合間に抜けるような空やきらめく海が見られると心が和みます。



来間島の竜宮城展望台からみた展望（宮古島までのびた来間大橋と宮古ブルーといわれる青い海が見えます）撮影日：2016/7/13

所属：岐阜女子大学
役職：講師
E-mail：myuco@gijodai.ac.jp
専門分野：教育工学

経歴

2000年3月
岐阜女子大学 大学院 英語英米文学研究科 修士課程 修了
2000年4月
岐阜女子大学 文化情報研究センター 補助職員
2006年4月
岐阜女子大学 文化情報研究センター 研究員
2011年4月
岐阜女子大学 文化創造学部 文化創造学科 助教
2016年4月
岐阜女子大学 文化創造学部 文化創造学科 講師

研究の概要



高校生の修学旅行事前・事後学習、現地学習用冊子「沖縄修学旅行おうらい」のしくみ
例）3. 世界遺産（3）勝連城跡の項目

デジタルアーカイブでは文字、動画、静止画、音声など収集した資料データの記録と利用のための保管が進められてきたが、近年の記録方式や提示方法の発展により多様な利用が生まれている。そのため、利用者のニーズにあった利用のための提示および保管方法の試行研究を行っている。そのひとつとして本学で収集している沖縄の伝統文化や生活文化、自然に関する地域資料（沖縄地域文化デジタルアーカイブ；以後沖縄DA）を用いて、高校生ための修学旅行事前・事後学習、現地学習を支援する「沖縄修学旅行おうらい」（冊子とWEB）を作成している。印刷メディアと通信メディア双方からの学びを連携させるため、冊子の各項目に二次元コードを掲載し、タブレットPCやスマートフォンなどの読取りにより、冊子からWEBの詳しい情報へアクセスできるようにしている。また利用していただいた高校の教員に任意でアンケートをお願いし、翌年の改善点を分析している。毎年発行しており今年（2016年度）で6版となる。今後は、デジタルアーカイブのさらなる利用促進、高校生の地域文化へのより深い理解へ繋がるような資料の提示と保管方法について研究を進めていきたい。

代表論文

- デジタルアーカイブの保存・提示における資料データ構成と情報構成～単体保存・集合保存・構成保存のプレゼンテーションへの利用，加藤真由美，岐阜女子大学文化情報研究 Vol.15 No.13, 2014.1.
- 新聞・放送、デジタルアーカイブを用いたメディアミックスについて～岐阜女子大学デジタルアーカイブを用いた岐阜新聞、岐阜放送、岐阜新聞電子版のメディアミックスの構成～，加藤真由美，岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所テクニカルレポート，Vol.1 No.1, 2015.6.
- 三宅の「知の増殖型サイクル」機能を用いた観光資源の開発～沖縄修学旅行おうらい等の活用へ～，加藤真由美・加治工尚子・大木佐智子，岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所テクニカルレポート，Vol.2 No.1, 2016.6.

共同研究希望分野

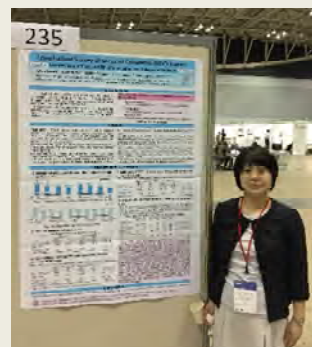
- (1) 観光分野での地域文化資料デジタルアーカイブの活用方法について
- (2) 公共図書館の地域文化資料デジタルアーカイブの手法（提供と保管）について
- (3) タブレット端末を用いた現地学習（地域学習）について
- (4) 地域資料としての利用に向けた現地調査（フィールドワーク）データ等の記録方法と提供方法について



研究主題：

ストレスマネジメントに関する教育プログラムの開発／レジリエンス、首尾一貫感覚（SOC）の規定因の検討

講師 **佐々木 恵理** Eri SASAKI



研究のキーワード

ストレスマネジメント、レジリエンス、首尾一貫感覚（SOC）

所属：岐阜女子大学 文化創造学部
役職：講師
E-mail：sasaki@gijodai.ac.jp
専門分野：臨床心理学、健康心理学

一言アピール

私は、臨床心理学や健康心理学を専門とし、ストレスやメンタルヘルスに関する研究に取り組んでいます。また、大学の教育活動に携わる中で、学生が実習や論文作成といった心理的負荷の高い出来事に遭遇した際に、そのストレスに対して“打たれ弱い”ことを感じており、“力強く、たくましく”生きていくにはどのような心理的資質が大切なのか、それらをどのように向上させたり、育成することができるかに興味をもっています。

経歴

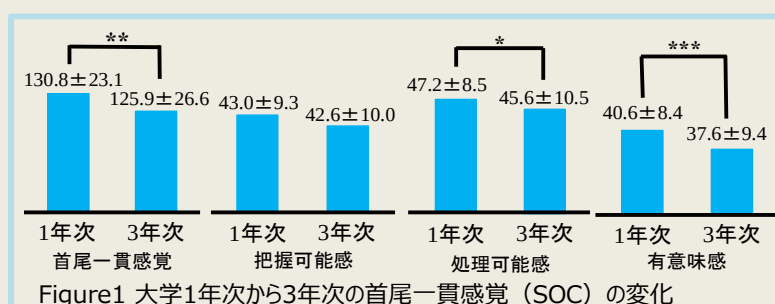
平成19年 筑波大学 第二学群 人間学類 卒業
平成21年 仁愛大学 大学院 人間学研究科修了 修士(心理学)
平成21年 筑波大学 大学院 人間総合科学研究科
(3年制博士課程) 入学
平成23年-25年 茨城県スクールカウンセラー
平成25年 岐阜女子大学 文化創造学部 助教
平成27年 岐阜女子大学 文化創造学部 講師

研究の概要 【平成27年度連携型共同研究紹介】

【研究テーマ】 女子大学生の首尾一貫感覚（SOC）の特徴—女性の活躍を促進する心理的要因の検討—
【共同研究者】堀田亮（岐阜大学 保健管理センター・助教）・西尾彰泰（岐阜大学 保健管理センター・准教授）
磯村有希（岐阜大学 保健管理センター・非常勤臨床心理士）・山本眞由美（岐阜大学 保健管理センター・教授）

【目的】女性が社会で活躍するための人間力のひとつとして、ストレス耐性やストレスに対して健康を維持し自身の成長へと還元する能力や志向性を表す首尾一貫感覚（Sense of Coherence；以下SOC）に着目しました。SOCとは、Antonovsky（1987）によって提唱された概念で、①把握可能感：周囲の状況や自分がすべきことが分かるという感覚、②処理可能感：自分や他者の力を信じ、それらを用いて物事に対処できるという感覚、③意味感：周囲の環境も含めた自分の人生に対する関心や希望の感覚）の3つの要素から構成されています。研究では、①大学生の SOC の実態と基本属性、生活習慣、精神的健康度との関連、②大学生の SOC の縦断的变化について検討し、女性活躍推進に寄与する大学の人間力育成教育の科学的根拠を示すこととしました。

【結論】大学生のSOCの実態として、所属学部や精神的健康度による関連は示唆されましたが、生活習慣による差異はみられませんでした。SOCは、男性より女性の方が高く、新入学時に比べ3年次にかけて低下していました（Figure1）。これらのことから、女性の活躍を促進する視点からも大学教育の中で、学部の特徴を見極め成功体験を積ませる教育内容、プログラムの充実を図っていくことが有用であると考えられました。



共同研究者らと研究の打ち合わせ

○平成27年度連携型共同研究の成果の一部は、平成28年7月に開かれた第31回国際心理学会議にて発表しました。

代表論文

- 佐々木恵理(2016). 教員養成課程における女子大学生のレジリエンスと教職能力、理想の教師像との関連 岐阜女子大学紀要, 46, 1-10.
佐々木恵理(2013). 教員養成課程におけるレジリエンス育成の適用と展望～セルフケアを促進する予防的視点から～ 岐阜女子大学紀要, 43, 119-127.
佐々木恵理(2015). ストレスマネジメント 山本眞由美(監修)大学生の健康ナビ—キャンパスライフの健康管理 (p84-89) 岐阜新聞社
堀田亮・菅原大地・佐々木恵理・杉江征(2015). 自律訓練法には不安低減効果があるのか：2000年-2014年の文献のシステマティック・レビュー 自律訓練研究, 35 (1,2) , 43-52.

共同研究希望分野

心理学、医学、教育学などの分野におけるストレス対処やメンタルヘルスに関する研究

研究主題：

幼児の運動遊び

講師 **松本 香奈** Kana MATSUMOTO



研究のキーワード

体育心理学、運動遊び

一言アピール

主な研究分野は、幼児の運動遊びに関することです。他にも、幼児教育・保育に関わる科目を担当しており、絵本の読み聞かせや保育者の資質向上に関する研究にも取り組んできました。

運動遊びについては、学生の意識調査等から、養成課程においてどのような学修が必要であるかを考えています。



所属：岐阜女子大学 文化創造学部
役職：講師
E-mail：kana@gijodai.ac.jp
専門分野：体育心理学

経歴

平成18年3月
筑波大学 大学院 体育研究科 体育方法学専攻 修了（修士）
平成18年4月
岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター 専門員
平成21年4月
岐阜女子大学 文化創造学部 助教
平成23年6月
岐阜女子大学 文化創造学部 講師

研究の概要

運動遊びに関する学生の意識は、運動を得意とする学生と苦手とする学生では、子どもに教えたり新たな遊びを提案したりすることに関する自信度に違いがあります。少しでも自信をつけて保育現場に立てるよう、養成課程で何ができるか、ということに取り組んでいます。現在は、自信を支える運動遊びに関する知識を得られるよう、理論学修を行い、その後指導案を作成し、実際に自分たちで実践、省察をする中で、どのような意識変化が生じるか、を検証しています。

運動遊びについては、小規模保育のように限られたスペースであったり、病児保育のように体調を考慮したりする、様々な条件下において運動遊びをどのように提供できるか、ということにも注目しています。

保育者の資質向上に関しては、ミュージカル上演活動を通じた実践力向上について検証しています。学生主体の活動において、保育者・教員としての資質をいかに自覚し、どのように向上させようとしているか、を記録やアンケートから明らかにしようとしています。

絵本の読み聞かせは保育者の資質向上にも繋がっていくもので、絵本の読み聞かせ方（表情・声等）を分析して、より良い読み聞かせを考えています。また、親子対象のイベントの企画・運営において、学生の実践力向上となるものは何か、それはどのようにすればよいのか、を考えています。



代表論文

- ・「保育内容（健康）」における運動遊びの指導に関する研究 ― 幼児期運動指針の活用 ― 『初等教育学研究報告』Vol.5 pp.41-46 平成28年3月
- ・保育士・幼稚園教諭に求められる資質能力の向上ための取り組み－ミュージカル上演活動を通じた成果と課題－ 『岐阜女子大学紀要』第45号 pp.115-123 平成28年3月

共同研究希望分野

幼児の運動遊びに関する研究（様々な形態＜小規模保育・病児保育等＞での運動遊び、身体活動）



研究主題：

実践的なコミュニケーション能力を 育成するための英語教育



講師 **松家 鮎美** Ayumi Matsuka

研究のキーワード

英語教育, 英語コミュニケーション, ジャーナリズム

所属：岐阜女子大学 文化創造学部

役職：講師

E-mail : matsuka@gijodai.ac.jp

専門分野：英語教育, ジャーナリズム

一言アピール

ジャーナリズムを学んだ後にテレビ局勤務等を経て、現在岐阜女子大学で英語の授業を担当しています。専門は、英語コミュニケーションや英語教育で、実践的なコミュニケーション能力を身に付けるにはどういったアプローチが適切かを日々模索しています。

経歴

2008.5.31	University of South Florida, Journalism and Media Studies (M.A. in Journalism)
2014.4.1	岐阜女子大学 文化創造学部 文化創造学専攻 観光専修 助教
2015.4.1	岐阜女子大学 文化創造学部 文化創造学専攻 観光専修 講師

研究の概要



Swainの「アウトプット仮説」をもとに、スピーキングの実践をする学習者

☆英語運用能力の育成を目指す授業実践

実践的な英語能力を獲得するため、Swainの「アウトプット仮説」をもとに、4技能（聞く、読む、話す、書く）の育成を目指した研究を行っています。特に「話す」と「書く」に焦点を当て、一定の知識を得た（インプットした）後にアウトプットすることで継続的な英語力の伸びに繋がるかを検証しています。

☆TBLT(Task-based Language Teaching)導入による授業実践

どんなタスク活動を用いることが継続的な英語学習を可能にするかを検証するため、ペアワークを用いた単語学習の効果測定や、ワークシートを用いた情報発信等、様々なタスクを取り入れた授業実践を行っています。その他、ICT機器の利用が語学学習にどんな効果を及ぼすかを検証しています。

☆フィールドを活用した語学学習

日本を訪れる外国人観光客の増加に伴い、日本各地の観光現場で外国語の能力が必要とされています。そのため、授業内で一定の語学トレーニングを行った後に、観光地等へ赴き、学習者の英語運用能力について検証しています。



観光地での英語実習の様子

代表論文

- ・「タスク活動を取り入れた英単語学習と実践」岐阜女子大学紀要 第45号, 2016年1月, pp75-82
- ・「アジア地域に向けた観光誘致 ～情報発信～」岐阜女子大学文化情報研究 Vol.16-2 2014, 2014年10月, pp19-27
- ・Exploring Team Teaching in a Public Elementary School 岐阜女子大学文化情報研究 Vol.17-3 2016, 2016年2月, pp35-40
- ・Utilizing Tablet Devices in Tourism English Classes ～ Recommending a Popular Destination to Visitors from Overseas ～ 岐阜女子大学文化情報研究 Vol.17-2 2015, 2015年12月, pp11-18

共同研究希望分野

コミュニケーション, 言語, 教育, 観光, 地域文化

研究主題：

子どもの健全育成と学童保育

教授 森 洋子 Youko MORI



研究のキーワード

放課後児童クラブ 児童健全育成 子どもと福祉

一言アピール

国の行う、放課後児童健全育成事業にかかわる、いわゆる学童保育に通室する児童を、義務教育の教員の立場から把握してきた。職を離れてからは、行政の福祉の立場から学童保育現場をフィールドにして、研究主題に関わる研究をしている。

所属：岐阜女子大学 初等教育学専攻
役職：教授
E-mail：ym1015@gijodai.ac.jp
専門分野：教育学

経歴

2006年3月
中部学院大学 大学院 人間福祉研究科 修了
2005年4月
岐阜女子大学 文化創造学部 助教授
2008年4月
岐阜女子大学 文化創造学部 教授

研究の概要



研修会の様子

行政が運営している学童保育施設に関わり、児童健全育成の立場から、学童保育の運営方法の改善を研究している。

- ・ 学童保育の支援員部会を開催し、支援員研修会を計画的に実施していくシステムを整えた。
- ・ 支援員研修会をテーマをもって行い、高まりのある内容で、充足感が持てるようにして進めている。
- ・ 児童理解、保護者理解、支援員仲間理解の追究課題をもち、研修委員を相互に選び合って、自主的研修ができるように進めている。
- ・ 保護者会の開催を行い、学童室を利用する保護者の「学童保育理解」を進めていくことが、目下の課題である。

代表論文

- ・ 児童の健全育成を果たす学童保育のあり方
- ・ 学童保育における指導員の専門性
- ・ 学童保育の現状と課題

共同研究希望分野

教育学
児童福祉



研究主題：

教育と学びにおける 新たな教育・学びの方法

准教授 齋藤 陽子 Yoko SAITO



研究のキーワード

教育工学，教育方法，ICT教育，デジタルアーカイブ，学童保育

一言アピール～現在の関心～

現在教育の方向性が大きく変わろうとしています。そのことにとっても大きな関心を寄せ、注目をしています。

私は今、教員の卵たちを養成する立場にあり、毎日を私自身も育成してもらいながら、その卵たちと共に過ごしています。これからの社会を担う人材を養成する夢ある職業である「教員」。その教員に求められる「資質・能力」の大転換。そこには、子供たちが身につける資質・能力の変革があります。そのことが、学校教育、生涯学習にどのように変化をもたらすのか、追究していきたいと思っています。

所属：岐阜女子大学 文化創造学部
役職：准教授
E-mail：youko@gijodai.ac.jp
専門分野：教育工学

経歴

岐阜大学 大学院 教育学研究科 修了（教育学修士）

岐阜県内公立小中学校勤務

岐阜女子大学 文化創造学部 文化創造学科
初等教育学専攻 准教授（現職）

日本教育情報学会 評議員・教育資料研究会副会長（現任）

研究の概要

1. 学習支援システム開発

- ・遠隔教育（テレビ会議等）を用いた学習支援システムの開発
- ・学生メンター（相談者）養成プログラムの開発

2. 「専門性を持つ実践力ある教員」養成のための授業分析

- ・国際的な教育観を養うための「海外教育視察研修」及び授業分析
- ・日本国内の授業アーカイブと授業分析
- ・総合的な教師力向上のための調査研究事業（本学委託事業として）

3. 教材開発

- ・伝統・文化教育のための地域素材アーカイブ
- ・社会科における地域素材アーカイブ



様々な教育の現代的課題に対して、研究を進めておられる教育実践者・研究者の方々と実践発表を行い、研究を深めています。
（日本教育情報学会HPに開催予定を掲載
<http://jsei.jp/index.html>）

日本教育情報学会
教育資料研究会 研究誌

授業アーカイブと授業分析



授業をアーカイブし、その授業の教師・児童の言動を文字化し、分析を進めます。

逐語記録（授業の文字化）

時間	教師	児童
10:00	教師が授業の導入を行います。	児童が授業の導入に反応します。
10:05	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
10:10	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
10:15	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
10:20	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
10:25	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
10:30	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
10:35	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
10:40	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
10:45	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
10:50	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
10:55	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:00	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:05	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:10	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:15	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:20	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:25	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:30	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:35	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:40	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:45	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:50	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
11:55	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。
12:00	教師が授業の展開を行います。	児童が授業の展開に反応します。

4. ICTを活用した効果的な教育方法の開発

- ・電子黒板と電子教科書の効果的な活用方法の研究
- ・新しい学びのためのICT活用

5. 過去のエデュケーション資料の現在の教育への活用

- ・過去のエデュケーション工学における研究成果の現在への適応方法の研究
- ・レスポンスアナライザーを活用した教師と児童の応答に関する研究

6. これからの学びの在り方に関する調査・実践研究

- ・子どもの新たな学びに関する調査研究
- ・新たな学びの方法の開発・実践

代表論文

- ・機関連携による遠隔教育相談システムの在り方
- ・Hybrid Media機能を活用したデジタル学習材の開発～地域素材を活用した社会科デジタル副読本の開発～
- ・過去、現在、未来を結びつける教育実践のデジタルアーカイブ化と利用の可能性～岩田晃先生（1967年～1969年）の実践資料を例として～

共同研究希望分野

- ・ICTを活用した効果的な教育方法の開発

研究主題：

日本文学と漢詩文

准教授 **岡部 明日香** OKABE ASUKA



研究のキーワード

白居易 源氏物語 比較 和漢

所属：岐阜女子大学 文化創造学部
役職：准教授
専門分野：日中比較文学

一言アピール

日本と中国の比較文学研究に取り組んでいます。特に古典と漢詩文引用の関心に興味があります。

経歴

2007年5月 早稲田大学より博士（文学）受領

研究の概要



日本と中国の中でも、源氏物語を詠じた日本漢詩に興味があります。

代表論文

「光源氏の明石転居と儒・道・神・仏—その逡巡の思想的背景」武蔵野書院『王朝文学と東ユーラシア文化』2015年10月刊

共同研究希望分野

和漢比較文学、中古文学



研究主題：

物語文学の言説分析

教授 **鈴木 泰恵** Yasue SUZUKI



研究のキーワード

物語、語り、言説、主体、平安、中世王朝

一言アピール

現在は、男性2名、女性4名で、三条西家本『狭衣物語』について研究しています。この物語の作者は女性ですが、書写者は女性であったり男性であったり、教養があったりなかったり、それはもういろいろです。ところが、書写者の具体的な姿は、ほとんど伝承されていません。

そこで、本文の様態から、いかなる書写者が、いかなる書写意識のもとに、この本文を写したのかを、考えようとしています。たとえば教科書として提供する本文などは、多様であっては困るのですが、写本の世界は、実のところ性差・身分差・教養差等々、それぞれ違った多様なあり方を示し、それが本文を特徴づけているのではないかと考えています。いわば写本のダイバーシティを考えたと思っております。

所属：岐阜女子大学 文化創造学部
役職：教授
E-mail：ysuzuki@gijodai.ac.jp
専門分野：日本文学

経歴

1993年3月
早稲田大学 大学院 文学研究科 博士課程単位取得退学
2015年4月
岐阜女子大学 文化創造学部 准教授
2016年
岐阜女子大学 文化創造学部 教授

研究の概要



日本文学の古典文学、とりわけ平安期から中世にかけて創られた王朝物の物語を研究対象にしている。『源氏物語』にひとつの画期を見て、『源氏』以降の物語は概ね低い評価を与えられていたが、むしろ『源氏』批評として、それらの物語は新たな境地を拓いている様子について研究している。

最近では、平安後期物語の『狭衣物語』について、「語り」のあり方や、「語り」の言説が、『源氏』とはまったく趣を異にして、きわめて独特である点に注目している。その「語り」は、一人の語り手によるものでありながら、まるで何人かが語っているかのように、「語り」の方向性を複数化してしまっている。ここにおいて、「語る主体」あるいは「主体」というものが、鋭く問われている点について考えている。

また、昭和初期から、近代作家たちが、いわゆる「王朝物」を訳したのとは異なり、近代文学に不可避に組み込まれている王朝物語という観点から近代文学を読み直し、また近代から王朝物語文学を照らし返す作業にとりかかっている。具体的には、三島由紀夫の『春の雪』と平安後期物語の『狭衣』との関係、あるいは三島の『王権論』が『源氏』(王権論)に与えた影響をとらえながら、王朝物語における「王権」のありようと、理念をとらえていく作業を行っている。

最近あまり文学史が書かれなくなっているが、新たな文学史を組み立て直せればと考えている。

代表論文

- ・『狭衣物語』のちぐはぐな「語り」—飛鳥井物語における道成の「不知」をめぐる—（『日本文学』763 2017年1月 日本文学協会）
- ・「〈王権論〉とは何であったのか」（助川逸一郎編 新時代への源氏学9『架橋する〈文学〉理論』竹林舎 2016年 所収）
- ・「近代の注釈観—基礎作業と創造のはざまで—」（土方洋一編 新時代への源氏学7『複数化する源氏物語』竹林舎 2015年）

共同研究希望分野

日本古典文学

研究主題：

Western Eyes on Gifu

教授 山中 マーガレット Margaret YAMANAKA



研究のキーワード

Travel Literature, Nakasendo, Meiji, Writing

所属：岐阜女子大学 文化創造学部 観光専修
役職：教授

E-mail : myama@gijodai.ac.jp

専門分野： 紀行文学、コミュニケーション学

一言アピール

My first interest is to learn more about how the first western visitors to Japan saw this central Region, and especially how they saw the lesser-travelled Nakasendo. However, I am also interested in present-day Japan, and am wondering how best to “advertise” this area to the foreigner who would rather visit the beautiful countryside than stay in the ever expanding cities.

経歴

Education:

Gifu Women's University, Gifu, Japan, Master of Arts in American Literature (1999)

University of Queensland, Australia, Bachelor of Arts in Japanese Language & Literature (1979)

Teaching Experience (Full-time):

Gifu Women's University (2000-present)

Chubu Women's College / Chubu Gakuin College (1980-82, 1991-2000)

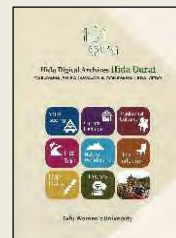
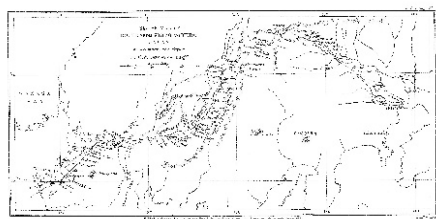
研究の概要

When Ernest Satow walked the Nakasendo with his friend, Albert Hawes, they wrote a *Handbook for Travellers in Central and Northern Japan*. It included some great information, like advice on what to bring on such a journey: Persian insect powder and boot laces made of hippopotamus hide, along with other interesting commodities. Walter Weston wrote in detail about Gifu and the Great Earthquake of 1891. He was heartened by the stalwart people who soon set to rebuilding their broken town.

My research, however, centers on the work of Lawrence, who included a map with his report of the eighteen days he spent walking the Nakasendo. I am in the midst of translating, and investigating (in pieces) his travels. As I travel, I realize just how rich this area is, and I also realize that not enough information is available in English. The Board of Education in Gifu has made a booklet, written in English, featuring something special about each town. This is so children can learn to introduce their own town in English. But I feel that more needs to be done to bring the visitor to this area first. Some cities, like Takayama, are very lucky to have a wealth of information already, including the *Hida Ourai* booklet which I and other lecturers here translated, but other areas are in need of well-written, informative booklets and articles.

While teaching Written Communication, I hope to augment the information available on Central Japan.

I invite you to join me.



代表論文

- ・“On Maugham's Portrayal of Asia,” 岐阜女子大学紀要 第46号
- ・「地域資料の英語化の課題 ～『飛騨おうらい』の英訳を通して～」、岐阜女子大学文化情報研究 Vol 16. No. 4 （共著：安藤義久等）
- ・「大学における地方の民話を使った英語教育」、岐阜女子大学 地域文化研究 第28号 （共著：安藤義久）
- ・「C. W. ローレンスの『中山道で京都から江戸の旅』—日本語訳と解釈—」、岐阜女子大学 地域文化研究 第27号
- ・“Occidentals in the Orient: Western Diplomacy in Siam,” Proceedings of the 15th STEM Conference, Korea

共同研究希望分野

Travel Literature, Travel Writing



研究主題：

日本近世村落における村、 地域社会に関する研究

講師 辻 公子 Kimiko TSUJI



研究のキーワード（※必須）

村落、家、日記、宿場、古文書

一言アピール

地域の歴史や文化に関心を持ち、古文書史料を読み解いて、村や家について研究しています。また、地域史料の整理や保存にも関心を持っています。

所属：岐阜女子大学 文化創造学部

役職：講師

E-mail：funato@gijodai.ac.jp

専門分野：日本近世史、記録史料学

経歴

2001年3月

名古屋大学 文学研究科 史学地理学専攻（日本史）
修士課程修了

2001年7月

岐阜女子大学 地域文化研究所 所員

2009年4月

岐阜女子大学 文化創造学部 講師

研究の概要



・古文書の調査・整理・目録作成を行い、その読解をととして日本近世の地域、村、宿場、家の姿を探っています。

・地域文化研究所のプロジェクトとして、地域が所蔵している古文書の整理を行い、目録を作成・公開し、保存方法への協力などをおこなっているほか、自治体史編纂などにも協力しています。

また、民俗調査のプロジェクトとして、地域文化の調査を行い、地域に伝わる祭礼芸能の一つである「地芝居」について、聞き取り調査・文献調査をおこないガイドブックを作成して刊行するなどしています。



論文・資料等

『新修豊田市史 資料編 近世Ⅱ』 共著 豊田市, 2016年3月, p.736-743

『大垣市史 通史編 自然・原始～近世』 共著 大垣市, 2013年3月, p.685-720

『旧中山道鵜沼宿本陣桜井家文書Ⅳ』 単著 各務原市資料調査報告書第37号, 2014年3月1日

『尾張の古都清洲と濃尾地域－名古屋開府400年記念－』 共著 名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室, 2010年8月, p.18-27

『岐阜県の地芝居ガイドブック』 共著 岐阜女子大学地域文化研究所, 2009年3月20日, p.12-15, 76-77

共同研究希望分野

（１）近世日本の地域社会に関する研究



アピ株式会社



研究主題：

ローヤルゼリーの研究と開発

研究員 **新井 靖子** Yasuko ARAI



研究のキーワード

ローヤルゼリー、機能性研究、安全性研究、分析化学、原料開発

所属：アピ株式会社 長良川リサーチセンター
役職：研究員
E-mail : arai-yasuko@api3838.co.jp
専門分野：天然物化学

一言アピール

ローヤルゼリーのアレルギーについて研究しています。ローヤルゼリーの機能性について、*In vitro*や*In vivo*のデータだけでなく、臨床試験レベルのエビデンスを共同研究で取得できればと思っています。

経歴

2012年3月 明治薬科大学大学院生命創薬科学専攻修了
2012年4月 アピ株式会社入社

研究の概要



ローヤルゼリー

アピ株式会社は養蜂事業に始まり、現在は養蜂および蜂産品関連事業、健康食品受託製造事業、医薬品受託製造事業を行っています。弊社の研究施設である長良川リサーチセンターでは、はちみつ、ローヤルゼリー、プロポリスなどの蜂産品を中心とした機能性食品素材の研究開発を進めています。

ローヤルゼリーとは、ミツバチが産生するクリーム状の物質です（左図）。ローヤルゼリーは孵化後3日までの幼虫と女王蜂の餌として用いられ、ローヤルゼリーだけを与えられた幼虫が女王蜂へと分化します。ローヤルゼリーには、様々な栄養素が豊富に含まれ、サプリメントとして世界各国で利用されています。現在までに、肩こり、冷え症および不定愁訴に対する改善効果やコレステロールの低下作用などの様々な機能が報告されています。



王台とローヤルゼリー

「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ（連携型）」では、「ローヤルゼリーアレルギーに関する基礎的研究」を進めています。ローヤルゼリーの種々の機能性が知られる一方で、ローヤルゼリーを原因とした食物アレルギーの発症も報告されています。本研究課題では、ローヤルゼリーの低分子化による抗原性の低減や、ローヤルゼリーと他の抗原との抗原交叉性について研究を進めています。特にローヤルゼリーの抗原交叉性に関する報告はほとんどありません。現在、ローヤルゼリーに対してアレルギーの自覚症状がある研究協力者から採取した血清を用いてELISA法により抗体価や交叉性について検討しています。

代表論文

Discovery of a novel diterpene in brown propolis from the state of Parana, Brazil. *Nat Prod Commun.* 2016 Feb;11(2):201-5.

Quantitative analysis of apisin, a major protein unique to royal jelly., *Evid Based Complement Alternat Med.* 2016;2016:5040528

共同研究希望分野

ローヤルゼリー製品を用いた臨床研究

研究主題：

プロポリスの研究と開発



研究員 **森本 智美** Tomomi MORIMOTO

研究のキーワード

プロポリス、機能性研究、安全性研究、分析化学、原料開発

所属：アピ株式会社 長良川リサーチセンター
役職：主任
E-mail：morimoto-tomomi@api3838.co.jp
専門分野：ウイルス学

一言アピール

抗菌活性、抗ウイルス活性、抗酸化活性をはじめとするプロポリスの機能性について研究しています。*In vitro*や*in vivo*の試験から、臨床試験レベルまで、広い視野での試験によるエビデンスの取得を目指しています。

経歴

2009年3月 東京大学 大学院 新領域創成科学研究科
メディカルゲノム専攻修了(生命科学)
2009年4月 大阪大学 微生物病研究所 研究員
2010年7月 名古屋大学 大学院生命農学研究科 研究員
2012年4月 アピ株式会社入社

研究の概要



グリーンプロポリス

当センターでは、プロポリス、ローヤルゼリー、蜂蜜などの蜂産品を中心に成分分析、機能性や安全性の評価から製品開発まで、一連の研究を行っています。

プロポリスとは、ミツバチが特定の植物の芽や樹液を材料にして、巣内の隙間に蓄えた天然素材であり、抗菌作用、抗ウイルス作用、抗酸化作用、抗炎症作用、抗腫瘍作用、免疫賦活作用など様々な活性が報告されています。私たちは、その中でも特に抗菌や抗ウイルス作用に着目して、研究を進めています。

抗菌作用

「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ（連携型）」では、歯周病関連菌をはじめとする口腔内細菌に対するプロポリスエキスの活性評価や、その関与成分の探索、並びに作用メカニズムについて検討を進めています。また、プロポリスエキスを配合したチュアブル錠を作製し、難溶性のプロポリスを口腔内で溶解しやすくする工夫をしています。

抗ウイルス作用

現在は、ヘルペスウイルスに対する抗ウイルス作用に注目して関与成分の探索と作用メカニズムについて研究を進めています。



レッドプロポリス

代表論文

- Discovery of a Novel Diterpene in Brown Propolis from the State of Parana, Brazil., *Nat Prod Commun.*, 2016 ;11(2):201-5.
- Effects of an ethanol extract of Brazilian green propolis on human cytochrome P450 enzyme activities in vitro, *J Agric Food Chem.*, 2014 ;62(46):11296-302.
- Artepillin C, a major ingredient of Brazilian propolis, induces a pungent taste by activating TRPA1 channels, *PLoS One.*, 2012 ;7(11):e48072.

共同研究希望分野

- (1) 口腔内細菌に対する作用機序、臨床研究、活性評価（う蝕関連菌、バイオフィルム、GTPase活性、MMP-1活性、口臭抑制など）
- (2) 生体内抗酸化、抗炎症に関する評価
- (3) プロポリス抽出残渣などの未使用原料の活用、品質保持技術

2015（平成27）年度採択の連携型共同研究課題一覧

代表研究者 (所属・職名)	研究課題	共同研究者 (所属・職名)
大藪 千穂 岐阜大学 教育学部・教授	岐阜の大学生と企業における 男女共同参画に対する意識調査	三輪 聖子 柴田 奈緒美 早川 博美 奥田 真之 岐阜女子大学 家政学部・教授 岐阜大学 教育学部・助教 株式会社十六総合研究所・研究員 株式会社十六総合研究所・主席研究員
水谷 陽子 岐阜大学 医学部附属病院・助教	掌蹠角化症における 角層バリア機能異常の解明	阿部 純子 中村 光浩 石塚 麻子 藤澤 智美 岐阜薬科大学 医薬品情報学研究室・博士後期課程 岐阜薬科大学 医薬品情報学研究室・教授 岐阜大学 大学院 医学系研究科・非常勤講師 岐阜大学 大学院 医学系研究科・助教
山根 京子 岐阜大学 応用生物科学部・助教	ワサビの落葉広葉樹林文化学的検証－ 持続可能な植物資源利用を目指して	清水 祐美 岐阜女子大学 家政学部・助教
岡本 朋子 岐阜大学 応用生物科学部・助教	セイヨウミツバチの巣箱が寄生蛾に 探索・発見される機構の解明	坂本 彩 坂本 亮太 アビ株式会社 養蜂部ミツバチ科・技術係主任 岐阜大学 応用生物科学部・学術研究員
柴田 早苗 岐阜大学 応用生物科学部・准教授	味覚センサーを用いた 動物用プロポリス含有粘着性包帯の開発	小野寺 理沙子 荒木 陽子 川部 美史 高島 諭 岐阜薬科大学 製剤学研究室・助教 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・製品開発顧問 岐阜大学 応用生物科学部・助教 岐阜大学 応用生物科学部・特定研究補佐員
小山 真紀 岐阜大学 流域圏科学研究センター・准教授	「生きづらさ学」の構築に向けた 領域横断型実践研究の試み	大崎 友記子 船越 高樹 相原 征代 岐阜女子大学 家政学部・准教授 岐阜大学 障害学生支援室・特任助教 岐阜大学 男女共同参画推進室・特任助教
永澤 秀子 岐阜薬科大学 薬化学研究室・教授	がん微小環境における 鉄代謝動態変動に基づく 病態制御機構の解析	鈴木 紀子 平山 祐 森重 健一郎 岐阜大学 大学院 医学系研究科・学術研究補佐員 岐阜薬科大学 薬化学研究室・助教 岐阜大学 大学院 医学系研究科・教授
宗宮 仁美 岐阜薬科大学 分子生物学的研究室・助教	mRNA 前駆体の3'非翻訳領域の 分子多様性が情動神経回路の 発達に及ぼす影響	福光 秀文 大沢 匡教 Morsheda Nasrin 岐阜薬科大学 分子生物学的研究室・教授 岐阜大学 大学院 医学系研究科・教授 岐阜大学 大学院 医学系研究科・博士課程
曾田 翠 岐阜薬科大学 薬物動態学研究室・助教	術後嘔気嘔吐（PONV）における オピオイド鎮痛薬の関与に関する研究 －薬物血中濃度測定と 遺伝子多型解析を用いた要因解析－	杉山 陽子 岐阜大学 医学部附属病院・講師
佐々木 恵理 岐阜女子大学 文化創造学部・講師	女子大学生の首尾一貫感覚（SOC）の特徴 －女性の活躍を促進する心理的要因の検討－	山本 真由美 西尾 彰泰 堀田 亮 磯村 有希 岐阜大学 保健管理センター・教授 岐阜大学 保健管理センター・准教授 岐阜大学 保健管理センター・助教 岐阜大学 保健管理センター・非常勤臨床心理士
古澤 貴子 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・主任	ローヤルゼリータンパク質の アレルギー性に関する基礎的研究	清島 真理子 高橋 智子 秦 健敏 岐阜大学 大学院 医学系研究科・教授 岐阜大学 医学部附属病院・助教 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・主任
服部 徳子 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・主任	ローヤルゼリーの抗うつ様作用の メカニズムに関する研究	森田(平田) 洋子 成田 幸夫 家垣 典幸 岐阜大学 大学院 連合創薬医療情報研究科・教授 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・課長代理 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・研究員

2016（平成28）年度採択の連携型共同研究課題一覧

代表研究者 (所属・職名)	研究課題	共同研究者 (所属・職名)
柴田 奈緒美 岐阜大学 教育学部・助教	学校給食におけるアレルギー対応食の 多様化に向けた試み	大場 君枝 岐阜女子大学 家政学部・助教
鈴木 紀子 岐阜大学 大学院医学系研究科・ 学術研究補佐員	悪性度や治療抵抗性の高い子宮頸癌は フェロトシス誘導で克服できるか	永澤 秀子 森重 健一郎 平山 祐 森 美奈子 岐阜薬科大学 薬化学研究室・教授 岐阜大学 大学院医学系研究科・教授 岐阜薬科大学 薬化学研究室・助教 岐阜大学 医学部附属病院・医員
稲垣 瑞穂 岐阜大学 応用生物科学部・助教	ヒト大腸フローラモデルを用いた岐阜特産物と 腸内フローラに関する基盤研究	西村 梢 岐阜女子大学 家政学部・助教
タマウオン マスイカン 岐阜大学 応用生物科学部・ 助教	仙寿菜のベタシアニン類色素保持に 最適な流通および加工調理法の提案	笠井 恵里 岐阜女子大学 家政学部・講師
柴田 早苗 岐阜大学 応用生物科学部・ 准教授	味覚センサーによる犬の味覚評価を軸とした プロポリス抽出物含有包帯の開発	小野寺 理少子 荒木 陽子 川部 美史 高島 諭 岐阜薬科大学 製剤学研究室・助教 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・ 製品開発顧問 岐阜大学 応用生物科学部・助教 岐阜大学 応用生物科学部・助教
小山 真紀 岐阜大学 流域圏科学研究センター・ 准教授	研究領域を横断する対話の場と協働に基づく 「生きづらさ学」の構築	大崎 友記子 船越 高樹 相原 征代 岐阜女子大学 家政学部・准教授 岐阜大学 障害学生支援室・特任助教 岐阜大学 男女共同参画推進室・特任助教
寺町 ひとみ 岐阜薬科大学 病院薬学研究室・教授	多職種連携による薬局薬剤師の 地域住民への健康サポートに関する 研究	川上 ちひろ 伊野 陽子 堺 千紘 館 知也 野口 義紘 岐阜大学 医学教育開発研究センター・助教 岐阜薬科大学 薬局薬学研究室・講師 岐阜薬科大学 薬局薬学研究室・助教 岐阜薬科大学 病院薬学研究室・講師 岐阜薬科大学 病院薬学研究室・助教
曾田 翠 岐阜薬科大学 薬物動態学研究室・ 助教	頸部椎間関節痛に対する脊髄神経 後枝内側枝高周波熱凝固術が 全身性サイトカインに及ぼす影響	田辺 久美子 岐阜大学 大学院 医学系研究科・准教授
井戸 章子 岐阜薬科大学 衛生学研究室・助教	新規皮膚感作性試験法の確立と天然物の 皮膚感作性評価	檜本 恭子 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・主任
斎藤 陽子 岐阜女子大学 文化創造学部・ 准教授	新たな学びの空間の在り方に関する研究	本田 法子 アビ株式会社 品質保証部・課長代理
新井 靖子 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・ 研究員	ローヤルゼリーのアレルギー性に 関する基礎的研究	清島 真理子 高橋 智子 秦 健敏 岐阜大学 大学院 医学系研究科・教授 岐阜大学 医学部附属病院・助教 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・主任
森本 智美 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・ 主任	プロポリスの口腔内細菌に対する 基礎的研究	田中 香お里 田澤 茂実 岐阜大学 大学院連合創薬医療情報研究科・ 教授 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・係長

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）
「清流の国 輝くギフジ」支援プロジェクト

女性研究者 研究の「種」のほん

2017（平成29）年3月発行

発行 国立大学法人 岐阜大学
岐阜薬科大学
学校法人 華陽学園 岐阜女子大学
アピ株式会社

編集責任者 林 正子
岐阜大学 副学長（多様性人材活力推進担当）
男女共同参画推進室長

連絡先（代表機関） 岐阜大学 男女共同参画推進室
〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1
TEL 058-293-3397・3378
FAX 058-293-3396
E-mail : sankaku@gifu-u.ac.jp

「清流の国 輝くギフジ」支援プロジェクト」webサイト：
<https://diversity.gifu-u.ac.jp/>

